

山形県立自治講習所大正七（一九一八）年の 第三期生「自治寮日誌」と短期講習生「日誌」

三原 容子

本稿では山形県立自治講習所の第三期生の日誌（一九一八年一月十五日～六月二十二日）と、主に小学校長を対象とする短期講習生の日誌（一九一八年十月五日～三十日）を紹介する。『東北公益文科大学総合研究論集』第二〇号（二〇一一年七月）で紹介した第一期生の日誌の続編であり、所蔵は上山明新館高校である。残念ながら、庄内地方の産業組合運動史上の重要人物である山本武夫と渋谷勇夫を含む第二期生の日誌は見つかっていない。今後、引き続き第四期生以後の資料を紹介する予定である。

自治講習所については、第二〇号の「資料紹介」の本

文と、『科学研究費補助金基盤研究（C）研究報告書 農本思想の現代的意義に関する研究』（二〇一一年三月）掲載の拙稿「山形県庄内地方の農業倉庫建設運動と加藤完治」を参照されたい。

「大正四年以降 講習生名簿」によれば、第三期生は安達要作（西村山郡三泉村）、安孫子芳尾（西村山郡柴橋村）、五十嵐金次郎（西田川郡栄村）、大木喜蔵（西置賜郡東根村）、加藤俊雄（東置賜郡大塚村）、菅野賢蔵（北村山郡福原村）、草島健太郎（東田川郡藤島村）、工藤義夫（西村山郡高松村）、齋藤長一（飽海郡北平田村）、西塔長次郎（東村山郡豊田村）、佐藤莊助（北村山郡富

本村)、佐藤仁吉(東村山郡山辺町)、佐藤文治(飽海郡北平田村)、設楽秀次(西村山郡西山村)、嶋津隆吉(東置賜郡二井宿村)、鈴木賢治(東田川郡黒川村)、高橋與五郎(東置賜郡沖郷村)、玉虫哲三(南置賜郡窪田村)、留場富太郎(北村山郡東郷村)、樋口昌吾(西置賜郡鮎貝村)、松浦喜久雄(東村山郡成生村)、松山兵衛(西置賜郡豊原村)、最上平司(西村山郡本郷村)、矢口儀(最上郡鮭川村)、渡邊順一郎(南村山郡金井村)(五十音順)の二十五名であるが、日誌には、これ以外に、安孫子順三、井上長六、海保隆治、鈴木義雄、名字のみであるが、川合(もしくは河合)、船越(もしくは舟越)、古橋の名前が登場する。講習生名簿は全生徒を網羅していないということだろうか。年齢は不詳であるが、おそらく第一期生と同様、二十歳前後の青年であろう。二十五名の学歴は、農学校卒十三名、中学卒二名、高等小学校卒その他が十名と記されている。

同じく「大正四年以降 講習生名簿」によれば、十月の短期講習生は二十五名、三名が訓導(現在の小学校教諭)、残りは小学校長で、東村山郡から四名、南村山、

西村山、北村山、最上、飽海、東田川、西田川、西置賜、東置賜、南置賜の各郡二名、山形市一名と全県下から参加している。(写真は、資料二点の表紙と第一頁である)

凡例(一)内はすべて三原による)

・変体仮名はすべて現在の仮名に改め、必要に応じ句読点と濁点を入れた。片仮名と平仮名は原文通りである。「日ねもし(ひねもす)」「ますます(まします)」等の訛った表記も原文通りである。

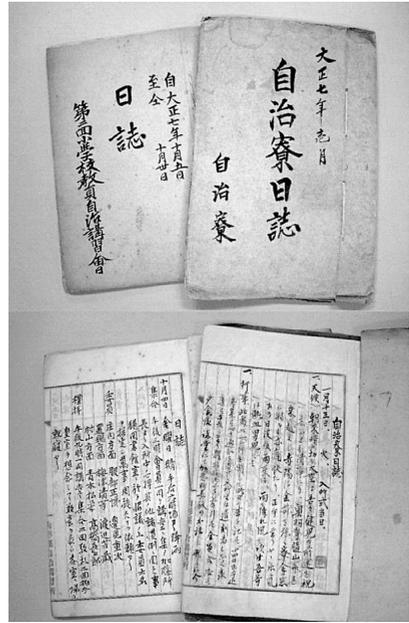
・旧字体は新字体に改めた。「全」は「同」とした。不明箇所は□とした。

・日付の書かれた行のみ太字表記とした。
・誤りと考えられる文字の横に、正しいと思われる文字を「」で示したところがある。

〔表紙〕

大正七年壹月 自治寮日誌 自治寮

〔以下、本文〕



自治寮日誌

一月十五日、火、入所式当日〔設楽印〕

一、天候、朝来晴れ切る大空は吾々健児の前進を祝してか、いとも清浄たり。奥羽脊髄山系を乗り越えし赤陽は金箭^{セン}を強く寮舎の窓に射るも亦痛快たり。正午に至りや、強く風あり。日没後雨来る。雨も降れ風も吹け、吾等は熱血男児ぞよ。

一、行事、此処に一二行を割きて昨日の事を記す。十四日正午迄参集すべき通知を受けし入所生は遅刻者も

なく参集す。午後に至り体格検査を挙行す。全員合格す。夕食後講堂にて加藤所長殿のお話し並に今後の寮舎生活に就きて種々規定さる。十五日朝食後各人協力して入所式準備に取かゝる。やがて開式の準備全くなり午前十時開式す。

○入所式順序

- 一、開式之辞、加藤所長殿
 - 一、唱歌君が代二唱
 - 一、所長告辞
 - 一、知事訓示
 - 一、来賓祝辞 柴垣師範学校長殿
 - 一、生徒惣代答辞菅野賢蔵氏
 - 一、所長挨拶
 - 一、閉式之辞
 - 一、来賓、
 - 依田知事閣下、柴垣校長、大麻理事官、松岡試験場長、寺尾、矢板両視学、長澤、大野両属、其他、生徒の父兄
- 式後展覽室にて茶菓の饗応あり。正午散会せり。

式後学科其他時間割の事に付、講堂に参会す。加藤所長殿のお話あり。夜は又図書室にて生徒の協議会あり。協議事項は左の如し。

(一)昨夜事務室にて加藤先生、及来校中の短期講習会卒業の長山、板垣先生及生徒側より設楽氏出席の上、作製せし、炊事、掃除当番割の草案協定ノ件。内炊事当番の作業より郵便物取扱ノ件を除き可決。
(二)各組より委員を定むる件可決。委員左の如し。

第一組 渡辺順一郎氏、第二組 設楽秀次氏、第三組 菅野賢蔵氏、第四組 樋口昌吾氏

(三)新聞紙共同講読の件可決、新聞名左記

山形新聞、東京朝日新聞、国民新聞、読売新聞

(四)茶話会に関する件、臨時開会する事、会費は拾銭を最大限度とする事、可決。

一、感想 朝食前の君が代合唱、就寝の際、午後九時に行ふ礼拝、加藤先生の訓示、知事閣下の訓示、其他耳目にふる、もの、是皆一として永久に忘る能わざるところのもののみなりき。感慨無量。

一月十六日、水〔設楽印〕

一、天候、朝より六花續粉として、流石は雪国の本性を現わす。時々烈風鷲毛を弄ぶ。

一、行事、本日は各自に用便の為め休暇を賜わり日用品其他の準備に雪を犯して往く者多し。午後二時より茶話会を催うしべき手筈なりしに、幸加藤先生より招待に相成、生徒一同官舎に参り加藤先生の御令嬢の誕生の祝と云ふお芽出度き、然も其日種々なる御馳走に相成、然も有益なる先生のお話しを承わり、お互に身の上を名乗り合ひ実に満足なる第一回の茶話会にてありし。午後四時半頃お暇して散会。

一、感想、然も休暇なりし本日にもか、わらず茶話会にて各自打解けての名乗会に得す。各自の心中は凍る厳寒乍ら春風そよぐ思ひにてありし。

一月十七日、木〔設楽印〕

一、天候、終日素雪飛べども甚だしからず。

一、行事、本日より学科初まる。加藤先生の農林経営(三限)の講話、修養の方法として祇は理想信念の発露をなす事、参拝ハ神人合一の実習の形式なる事、及武道、読書、登山等に種々なる例をとりて、懇切

に説明せらる。要するに日本道のドン底に到達せんには自己の忠なる事を自覚する迄修養するにありと。午後二組、四組は農場迄野菜運びに趣き、一組、三組は武道。

一月十八日、金〔設楽印〕

一、天候、昨日と大差なく日ねもし六花散る。

一、行事、第一限ハ野副先生の山鹿素行先生伝を承わる。

赤穂義士の真髓は実に素行先生の生める事なるを聞き、感化力はかくも偉大なる勢力を有する物かと感服。第二限は加藤先生の分担の観念に就きて種々述^マめられ、然ル後本所の創立の動機並に歴史を詳細に亘り述べられた。第三限は大麻理事官の自治行政講義、(一)自治の意義、(二)日本自治の振興策に付詳述。

午後は一三の組は武道、二四の組は実習にして縄綱ひ、安達君の七十四尋を第一等とす。午後七時より第二回の茶話会を図書室に開催す。先づ新入生玉虫、井上二氏の紹介より、林務課より御世話になりて木炭三百メ注文の件を報告す。又炊事の欠食の件三食

以下は計算せざる事と決定す。制帽の件、校歌の件は未定。然ル後焼芋をかづり乍ら加藤先生の榊原先生、山田先生のお話及設楽氏の統率する青年団の話あり。九時閉会。

一月十九日、土〔設楽印〕

一、天候、朝来晴れ渡りたる空より雪ふり来り又晴れ又降り、定かならぬ空模様にてありし。

一、行事、第一限ハ加藤先生の農村経営の講義、(一)一心同体に付国家と云ふ大生命に各個人心の帰一する事、(二)分担、(三)追進に付親切丁寧に述べられた。

後二四組の武道、午後は休みに付、外出する人多し。菅野、井上、留場、高橋、鈴木の諸氏、帰郷。

一月二十日、日〔設楽印〕

一、天候、近來になき好日和にて一天拭ふが如く晴れ渡り実に晴々しき一日なりき。

一、行事、日曜日の事として休みなれば外出する人もあり、又知人の訪問を受け応待する人もありき。

一月二十一日、月、大寒入〔設楽印〕

一、天候、雪チラホラ降れど大寒入の天気としては珍ら

しき平和な日和なりき。

- 一、行事、第一限野副先生の軍人の五ヶ条講義、第二限は学問々答と云ふ趣味あるお話しを承わる。第三限ハ加藤先生の人格の力と職業上の力と云ふお話、第四限は大麻理事官殿の憲法講義、午後は総員にて大掃除をやる、所内清浄にしていと心地よし。大掃除終了後二四組ハ武道をやる。

夜は村山会設立の件二付、村山出身十三名図書室会議の結果四名の創立委員制定す。鈴木義雄君痔疾に依り市立病院済生館入院す。

一月式拾二日、火〔設案印〕

- 一、天候、澄み切る青天井は雪を惜むにや、一片だに落さず、講堂のガラス窓を射る日光いとうららかなり。
- 一、行事、第一限は加藤所長殿の農村経営(一)国家(二)国家の目的、第二三限共第一限に引続き述べらる、第四限ハ一三四組の武道、午後一時より長沢地方指導の町村自治に就きての講話あり。大要は忠君愛国の精神により自治の完備をはかること、吾国民の自治心の欠け居るは自治的教育及訓練及歴史のなきに原因

す、故に是を完備するにありと。三四日前より井戸に故障生ず、風呂を沸かす事不叶、午後三時より市内の湯屋に入湯すべく外出を許さる。

一月廿三日、水〔設案印〕

- 一、天候、今日は又昨日に勝る好日和にて、かくても雪国の厳冬にやとうたがわる、なり。

- 一、行事、第一二限ハ加藤先生の農村経営の講話にして愛知県の老農館助左衛門氏、群馬県の篤農家清水及衛氏等の实例を引き説述せらる。第三限は肥料の話、施肥必要を述らる。午後ハ二四組ハ武道一三組は井上書記に薬液培養の実験を教わる。今夜加藤先生の誕生祝として豚肉の御馳走に一同有がたく頂戴した。

一月廿四日、木〔設案印〕

- 一、天候、朝まだき起き出で見れば、汚れをかくす程雪ふりてあり。されどされどさし出る旭の光に消え失せ日ねもす玻璃窓にさし込む日ざしのその力の強き事よ。

- 一、行事、第一限ハ加藤先生の講話、我国農村の特性として十三項に分け、種々例を引き説かる。第二限

も亦同じ。第三限ハ産業組合の歴史として欧州にて初めて設けられたる其原因又産業組合の使徒とも云はる、ロバートオウエン氏の伝記を説かる。午後武道、船越先生もお出でになり、四本目の了り迄仕太刀を教へらる。又野副先生より詩吟を教へらる。流石は九州武士の鍛錬せる腹のドン底より湧れ出る音吐朗々たる声量には感服の外なし。出来得べくんば尚進みて御指南あり度き物よ。

一月廿五日、金〔設楽印〕

一、天候、朝来どんより曇り渡れる空もよう。九時頃より晴れ初め、さてはいつもに勝る碧瑠璃の九天澄む。いと心よな（マモ）の一日にてありし。

一、行事、第一限ハ野副先生の先日のお話しの続きなる精神講話、例によりて趣味充溢、第二限ハ又吟声、齋藤監物作、高德題桜図の詩を教わる。第三限ハ加藤先生の肥料の話、人糞尿に就て。午後は二四組は武道、一三組は実習時間を利用して滝山村小立迄藁運に行き夕方帰る。夜は第三回茶話会品評会を如何にして成功ならしむかに付各自発表。

一月式拾六日、土〔設楽印〕

一、天候、雪は少しも降らざれども午后より曇り勝る空となり、加ふるに寒さきびしく樹々の梢に凍る気の花かとまがふ。其様いとるわし。

一、行事、午前八時より約三十分間野副先生の吟声教授、不識庵機山詩の詩、それより、野副先生、井上書記殿引率のもとに煙草専売局参観として行く。茶菓の饗応を受け、然る後煙草製造法及産額、工場法其他に付き局長殿の懇篤なる御講話をうけ、十一時より工場内各部の参観、目まぐるしきばかりの機械の廻転又は工女等の包装等の敏捷さには只々驚ろくばかり。各自は絶大なる一種の靈瀨（マモ）を胸底深く漂わしたのである。のみならず何れも皆分業的の精確なる。是こそ分担の力のいかに尊しと云ふも……。十二時お暇して帰る。第四組は朝飯前、第三組は中飯後、人糞尿を農場迄運搬、他は土曜日に付午後より休みとなる。佐藤莊助、渡辺順一郎、佐藤仁吉、松浦喜久雄、井上長六、安孫子芳尾の六氏帰村す、午後より。

一月二十七日、日曜日〔設楽印〕

一、天候、晴れ、所謂外出日和なり。

一、行事、休暇なれば各自外出する物あり、又自家ニ

帰る人あり。校内ひっそり閑として寂しかりき。加藤先生は県教育大会に出席す。帰村の生徒不残かへる、然も夕方に。

一月二十八日、月曜日〔設楽印〕

一、天候、一日雪ちらほらと降り寒からざれどもなんとなく不快気味なる日なりき。

一、行事、第一限ハ加藤所長殿の肥料講話、人糞尿の貯蔵腐熟に付き、第二限ハ同上人糞尿施肥法ニ付て、第三限ハ南村山郡瀧山村佐藤元吉氏作製農業家労力分配表ニ付説明せらる。即ち農村経営の時間に午後一時より大掃除をやる。

一月二十九日、火曜日〔設楽印〕

一、天候、昨夜来降りしきる雪は一、二寸積んで晴れしかども、時折は片々としてふる。

一、行事、第一限ハ加藤先生の農業経営、第二三限ハ吾国に於ける農家の地位に就て、それより図書室にて

去ル金曜日にやりし茶話会の際の問題の続きを全部

終結す。午後は二四組ハ実習をやり、一三組ハ武道をやる。東田川郡より鈴木賢治氏本日入所す。

○高湯温泉辻屋旅館ニ雪中行軍の事に付照会す。

一月三十日 水曜日〔設楽印〕

一、天候、白雪の日ねもすちらりほらりかな。

一、行事、午前第一二三限共対比に就て加藤先生の講話、午後は武道にて三時より入浴の為め外出も許さる。

一月三十一日、木曜日

一、天候、今日も亦昨日のごとく終日雪粉飛び、夜に入りては風さへ吹きつるりて寒さ一しも厳し。

一、行事、第一限は加藤先生の農村経営、農村の分担に付き、第二限ハ同じく国家と農村に就いて其關係を述べられ、第三限ハ産業組合の歴史に就いてロツチデールノ消費組合の事に付懇説せらる。午後は二四組ハ武道、一三組ハ実習草靴造り。

○雪中行軍に付照会せし高湯温泉辻屋旅館より道路其他都合よろしとの通知来る。

二月一日、金曜日〔設楽印〕

一、天候、未明甚だ寒く雪さへ少し降りしが、暫次晴れ
天日赫として快き日なりき。

一、行事、兼て加藤先生より仰せ出されし事なれば、今日
の神社参拝に付、四時頃より起床して祓をやるべく、然も凍る如き流水を浴ぶ。朝食後八時整列して
新築西通りより県庁前通りに出で更に右折して七日
町雁島公園に鎮座しますます県社湯殿山神社に参拝す。
帰所八時五十数分、それより所長先生の湯殿山、月
山、鳥海山、羽黒山の各神社にて奉祠せる大国主神
豊受神、月読命、宇迦御魂の神に就て、それぞれ高
天原、豊葦原中国、根国の事より説明せらる。実に
神秘的にしてかしこかりき。第二限ハ経済学ニ付講
義。午後は一三組は実習薬細具(マツ)、二四組は武道をや
る。夜は茶話例会あり。貯金の方法に付各自意見発
表後、加藤先生の泰西詩の訳誦を聞く。青年の努力
を歌へるものにして実に愉快なるものなりき。

二月二日、土曜日〔設案印〕

一、天候、雪少し降れども寒からぬ空なりき。

一、行事、第一限ハ加藤先生の産業組合の講話にて群馬

県清水及衛氏の青年時代のお話をせられた。午前九
時整列して山形監獄を参観すべく、丁年の生徒十名
丈、加藤、野副、井上の三先生に引率せられ行く。
事務所楼上にて典獄殿の御話しあり。収監人数、犯
罪種類、其他ニ付懇ろに説明せらる。それより看
守の案内にて監房、作業場、浴室等、残る限なく親
切に説明せらる。此の世からなる地獄の苛責とは是
をこそ云ふならん。時も時食事時間にてありしが、
赤い御仕着の然も極寒の今日此時、土間にアンペラ
の上に膝まるて臭い御飯を食べておる時の其有様、
かくても彼等は懺悔する気の起らずや。現在囚の大
部分は再犯より以上、十犯以上の者さへ有るとは、
誠に人間もかくなりて度し難しとすべし。同じ大和
民族であり乍ら。
お暇して帰所せしは十二時少し過ぎ、それより加藤
先生を初め生徒にも師範学校の演武大会に参列せし
方々あり。第二期卒業生西村山郡三泉村菊地崙之助
殿来所せらる。

二月三日、日曜日、節分〔設案印〕

一、天候、雪ふる甚だ少しなり。

一、行事、日曜なればさしたる事なし。中学校の演武大会を見に行く人あり。又明日の高湯行の準備として糧食分配やら色々忙わしく立廻る。八時札押して就床す。

二月四日、月曜日、立春〔設楽印〕

一、天候、晴天とは云ひ難けれども又悪天とも云ひがたし。

一、行事、今日しも待ちに待つたる高湯行きの日なり。

午前四時には皆起き立ちて各部署に付き、炊事掃除もおさおさに正六時の出発時間には旅装甲斐々々しく校門に整列す。白布を展べるが如き白雪には未だ一点の汚塵を認めず。半弦の寒月校舎の上に明皎々たり。野添先生〔野副〕には、実に愉快氣に御見送りあり。深謝せずして可ならんや。加藤先生船越先生井上書記殿引率の許に勇み立ちたる自治寮二十数名の健児は未だ寝も覚めぬ電灯瓦斯灯まばゆき山形市をば市を一直線に貫通して五日町八幡神社に到り、各自礼拝をなして意氣益々揚り、すがすがしく市を後とし

て田圃を過ぎ侶村を抜け半郷の宿に着きし頃には既に八時二十分とはなりぬ。是よりは爪先上りの小坂道にて、右に折れ左に折れ、原を過ぎ雑木林を通り、同志平に登り詰めし頃は天日強く光り背に汗を覚ゆ。山路幾何もなくして高湯に着きぬ。湯氣立ち込むる高湯、望む高湯辻屋ホテルに着ける頃ハ正二昼に近き十一時三十分にてあり。旅装を解き午食に就きし時のうれしさ、空腹なりし御連中とて其運飯の敏捷さは実に驚くに値す。午後ハ眠るあり湯に浸るあり、何れも何れものんびりとしたる浴槽氣分に酔ふ。十年振りにて実兄帰りしとの電話にて船越先生四時頃よりお帰りになる。夜は豚肉の御馳走に舌鼓を打つ。七時より茶話会を開く。加藤先生の琵琶唄城山、台湾入の二曲は一言一句一音一律涙に聞き血を踊らす。又親友の奇談を語らせられ実は一袋五錢の菓子味にも勝る数等なりき。就床は八時半、それより加藤先生は高湯青年会の講演会に出席さる。

二月五日、火曜日〔設楽印〕

一、天候、晴天

一、行事、話は尽せず名残は尽せねど、帰るべき時の一刻々々と迫れるぞ恐ろしき。至れり尽せりのホテルの懇切丁寧も、涌き出る清き霊泉もやがては別れずんばあらざるか。宿の御馳走の兎肉に満腹に詰め切

つた頑児連は午後一時と云ふに、お暇をして愈しき湯の街高湯を振りかへり振りかへり元来し道を只急ぐ。道はよし天気はよし、斯くて爪先下りの山道二里は瞬く間に半郷へ、道すがら四方の連山を眺望す。其壮大雄巖なる景は実に筆に表わす可くも非ず。日ぐれつ方楽しきホーム自治寮のドアのハンドルを握れる時の嬉しさよ……。さても面白かりし二日の旅よ忘れがたきかな。

第二期生西村山郡川土居村渋谷久喜氏来る。

二月六日、水曜日〔設楽印〕

一、天候、朝来どんよりと曇りし空よりは雪絶間なく降りしきり、日ねもす晴れやらす夜に入る。

一、行事、第一二限は立岩林学士の林学大意にして、公
有林野の種類整理学、第三限二至り約十分間許り松
岡農事試験場長の挨拶あり。それより卜部学務課長

の法制学講話あり。午後八野副先生の日本外史講義。それより寮舎大掃除に取かゝる。本日は初めて御三方の先生に遇ひ実に楽しき一日なりき。

二月七日、木曜日〔設楽印〕

一、天候、朝来粉の如き雪ふりしかどもいつしか晴れて
昼近き頃には天光朗らかなり。

一、行事、第一二限ハ兼て加藤先生よりもお話し有す先生
の親友農科大学助教須暗先生の講演あり《現代の文明と農業の将来》に就て。第三限は松岡農事
試験場長の県下の農業に就て。午後は加藤先生の農
村経営に付、清水及衛氏の経営談を四時迄。

二月八日、金曜日

一、天候、朝来の好天気、青空に雲なく実に日本晴の好
日和。

一、行事、第一限日本外史授業中設楽君家内に病人有り
とて帰省す。多分重患ならんが、一日も全快の速速
かならんを祈る。

第二限詩吟。第三、四限大麻先生の自治制度、著論
より講話、更に進んで皇室に関するに及んで一同

益々謹聴し一言半句も逃さじ余すまじの誠心、無言の裡に現れたり。日本国民として当然なりとは雖も忠君愛国の至誠此に発現せしかと思へば真に敬服の外無し。

午後八一、三組武道、二、四組藁細工。

二月九日、土曜日

一、天気、晴天、朝来寒気甚し

一、行事、第一限農村経営ノ話しありたり（四つの事物の根本関係に就て）。先生には第一限后直に講演の爲天童に向け出發せらる。生徒一同は野副先生引率のもとに山形県物産陳列館へ參觀に行く。我県の物産としては鉄、銅、青銅の鑄物及び清水焼等は其名声全国に聞ゆるに至りたりと云ふ。其他種々の物産に就き館員の説明あり。少憩の後午前十一時帰所す。明日明後日休日の爲帰郷する人多く残りたるはただの九人なり。平日の如く午后九時礼拝し寝に就きたり。

二月十日、日曜日

一、天候、朝よりどんよりと雪れる空もいつしか晴れ渡

り好天となる。

一、行事、日曜日の事とて外出するあり、スキー練習に行くあり。今日は何の仕事とてもなく無意味に過せる一日なりき。加藤先生には講演を終り午後一時帰所せらる。草島君は宅よりの電報ありたる為、早朝自宅に向け出發す。

二月十一日、月曜 紀元節

一、天候、天も紀元節を祝ふものによ、朝来珍しく澄み渡り心地良き好天気なりき。

朝食後薬師堂を参拝し九時より一同講堂に集合、君が代を合唱し祝意を表せり。午后三時頃より鈴木君を筆頭に皆嬉しげに帰所す。短期講習生の長南氏來所に付、加藤先生外七名にて武道を励む。

九時の礼拝后先生より本日は紀元節旧正月一日なるのみならず今週か来週に知事さんを招「マス分をき」し茶話会旁々催すべきに付、心を改め武道其他に付一層の奮励あられたしとの希望ありたり。

二月十二日、火曜日、〔設楽印〕

一、天候、風や、強く飛雲数抹碧空を走り、時々些少の

雪粉こぼる。

- 一、行事、第一限ハ加藤先生の農村経営講義にして事物の表現独立關係を四ヶ条に区分して説かせらる。第二限ハ自治機關と題して町村役場に付きて説かる。第三限は農事試験所の玉山技師の品種改良に付述説せらる。午後一時より野副先生の日本外史の講義、二時半より大掃除をやる。草島健太郎氏かへる。

二月十三日、水曜日、〔設楽印〕

- 一、天候、時々は鷲毛の如き雲飛べども概して好天氣にて、薬師公園の木々の梢の春らしく。

- 一、行事、第一二限は立岩先生の林学大意にして、森林の町村基本財産として安全なる理由、部落林の現況と整理統一に就き説かる。第三限ハト部先生の法制講義にして法と^{〔奥書〕}□□、法と慣習、法の分類に付述べらる。午後一時半より野添^{〔野副〕}先生の詩吟、二時より全部武道。

船越先生には西村山郡川土居村なる青年武道会に講師として出張す。今後一週間の予定なる由。

二月十四日、木曜日、〔設楽印〕

一、天候、天海深く澄み渡り雲片なし。

- 一、行事、第一二限は加藤先生の農村経営にして村役場村長二付。第三限ハ野副先生の詩吟瓢兮之詩。午後一時半より立岩先生の林学大意にして部落有林の現況並ニ其整理統一より入会山の成立、入会権の種類、入会林野の經濟的關係並ニ現況に付説かる。

- 午前秋田県由利郡本庄町本庄時報記者深浦清風氏來所、寢食を共にして当所を研究さるゝ事となり、夜は茶話会をやる。加藤先生の紹介より深浦氏のお話しとなる。氏は天下の老農として有名なる石川理己^{〔己〕}之助翁の恢復せる強首村字九升田の産にして石川翁の門下に修養せられし方なれど、九升田の荒廢せし理由より石川翁の恢復せられし實際談を約壺時間に渡り熱心叮嚀に説かる。九時礼拝の後、陛下の弥栄を三唱して就寝す。

二月十五日、金曜日、〔設楽印〕

- 一、天候、寒さ烈しかりし。朝は晴れたりしかど朝食頃より曇り初め、弱き陽の光もるゝのみ。

一、行事、今日は神社参拝の日なるを以て各自祓を尤も

出精に行ひ、午前八時整列にて三島通りなる三島神社に参拝、清浄無垢なる赤心を以て更に依田知事閣下官舎に伺候し玄関にて閣下にお目通り優握なる御挨拶を賜り帰る。第一二限は野副先生の日本外史講

義、それより加藤先生の産業組合の話にて仏独の産業信用組合の起因を説かる。午後一時半より第一三組は武道をやり、第二四組は実習にて農場に糞尿運搬す。午後六時より県会議事堂にて県の主催せる第五回定期講演会に行く。講師は斯道の大家として有名な天野雅彦氏にして演(トキ)の題ハ役役の工夫と云ひ、旧俳優中村仲蔵なる人物を捉え、其四辺の事情人物により分担、向上追進(進進?)、美化、国家たる大生命に帰一すべき吾人現代の状態等を尤も通俗的に板上水を流すが如き懸河の雄弁を振ふて午後十時迄演ぜらる。入場者は満場立錐の地なく就中婦女子は多かりき。

二月十六日、土曜日、〔設案印〕

天候、午前中は晴れやらぬ模様なりしが遂に晴又なる。行事、第一限ハ加藤先生の婦女子に關係する危険なる事

を三四自ら知れる人々に着きて実例を挙げ説かる。

午前九時半頃本庄新聞の深浦記者は懇ろなる暇乞しでお帰りになる。十時より村松先生の産業組合に付きての講話あり。

加藤先生には西村山郡川土居村の講演に赴かる途中二度君の家に泊るべく工藤君も共に中食後出発。

二月十七日、日曜日、〔設案印〕

天候、一天四辺晴れ渡りいと美しくしき空なりき。

行事、日曜日の事なれば外出する者あり。又舎内にて讀書するあり。清閑なる一日なりき。

二月十八日、月曜日、〔設案印〕

天候、午前の内冷え切つた空より二三度粉の様な雪ふり来りしかど、遂には晴れて北風寒う吹く。

行事、第一限野副先生の西郷南洲論、第二限日本外史、第三限ハ詩吟、午後〇時三十分より歩兵第三十二連

隊参観、週番莊司大尉の案内にて営内の各所を懇ろに説明せられ下土集会所にて大川連隊長殿のお話しあり。欧州戦乱より世界の大勢を論ず。現代の日本青年の立脚地に充分意を止められ、約壹時間半にわ

たる御講話ありたり。話は極細に及び、親切丁寧にお話しせられたる真に感謝すべき事也。四時半お暇。莊司大尉殿管門迄送らる、多謝。

加藤先生も船越先生も川土居村よりお帰りになる。

二月十九日、火曜日、〔設案印〕

天候、寒い西北風に連れて雪さへちらほら。

行事、第一二限共加藤先生の農業経営にして助役、収入役、書記、村会、区長会、戸主会、主婦会等に付お話しあり。第三限ハ農事試験場の井芹技師の苹果栽培に付講話あり。午後壱時より大掃除をやりました、生徒の体量(重)を計る。何れも量目の激増せしに驚くばかり。三時より各人武道、大に士気昇る。

二月二十日、水曜日、〔設案印〕

天候、昨夜は寒さいやに弱りしと思ひしが、朝食事頃より珍しや細雨霏々として来り、十時頃になりて本降りとなり加ふるに風さへ強く窓打つ音のおそろしき。

行事、第一二限は立岩林学士の林学大意にして入会権解消二付説かる。第三限は加藤先生の農村経営。庄内長南三右衛門氏の労力分配二付、表二依り経済方面

迄詳述せらる。午後三時兼て御招待申し上げし依田本県知事閣下御光来になり、又通知に依り参集せる卒業生諸氏も悪天を厭ひなくニコニコとして来所。直に武道になり、全部生徒の打込より数番の試合。

卒業生の仕合あり。最も痛快なりとの閣下のお言葉を忝ふす。五時食堂に一同会食。全部四十六名の大宴となる。生徒自らの一汁一菜が閣下に対し実に只恐縮あるのみ。夕食後図書室にて茶話会を開き、閣下の有益なるお話しあり。就中、西洋を買被る現代を説破し、日本在来の大本義を説き、又日本の将来には世界の最大強国を敵とせざるべからざれば、現代青年は努力の上にも努力を要するとのお話を種々例を揚げて説示さる。七時半閣下お帰りになり加藤先生のお話しありて八時和氣藹々裡に閉会す。来賓氏名左の如し。

本県知事依田閣下

短期講習卒業生小学校長側 阿部直次郎、菅野一治、長塚権吉、長山憲一郎、久永猪之助

第一期卒業生 五十嵐政次郎

第二期卒業生 鈴木恭太郎、西澤辰郎、高橋久助、菊地

就之助、安達邦

生徒父兄 島津茂兵衛（隆吉氏父）

以上拾四名也

二月二十一日、木曜日、〔設楽印〕

天候、静かに積もりし雪一寸程、また、く間に消え果て

一天うらゝかなり。

行事、八時三十分整列して山形駅御通過遊ばざる、北白

川宮殿下奉迎送の為、停車場に到る。加藤先生、野

副先生、松岡先生、井上書記引率。構内に整列して

着車を待つ。九時三十幾分と云ふに徐ろにブレーキ

を馬へんじ止□□一八六七六号列車。是ぞ金枝玉葉の御

身を參らせ給わる御召列車にぞある。奉送迎の各高

官、現役在郷将校等、綺羅星と並び、生徒としては

吾等自治講習生のみなりき。やがて九時四十五分、

汽笛一声余韻を曳ひて青森さして軌り出づ。最敬礼

裡に奉送す。

三泉村の二期生卒業生菊地就之助氏、安達邦氏、此

汽車にておかへりになる。高橋久助氏は至誠堂前に

別れてかへる。帰所拾時半より村松先生の産業組合、

午後一時半より四時迄立岩先生の林学大意講義。

北村山郡出身鈴木義雄氏は入所日尚浅きに痔疾の犯

すところになり、済生館病院に入院療養。其後経過

よろしく全快して帰舎せしが、又々再発して医師の

診断の結果共同生活に堪えざること、なり。本日を

以て退舎せらる。同氏は身体肥大、級中に優れ実に

骨格逞しき好青年なりしが、人は病の器とは仇に言

ひはまるものよな。同氏退所は独り個人の損失のみ

か、吾人寮生一同の痛惜のみか、吾子の如き愛しみを

垂れさせられつ、ありし加藤先生の御力落しの御

事と察せらる。予等は鈴木君の一日も早く病魔を払

ひ春秋に富む身の弥栄を祈りて止まざる也。

二月二十二日、金曜日、〔設楽印〕

天候、春らしからぬ空模様、白雪粉々たり。

行事、第一二限は野副先生の日本外史、第三限は大麻先

生の憲法講義にして摂政、領土権、国民に付、午後

は野副先生の詩吟。

二月二十三日、土曜日

天候、今日こそ春らしき好日和なりき。〔設楽印〕

行事、第一二限は加藤先生の肥料緑肥に付き、第二三四限は野副先生の日本外史講義。

安孫子、西塔、松浦、佐藤仁吉、菅野、安達の六氏
帰省す。

夜図書館に畳を敷き茶話会を催さる。各自思ひ々々の化物幽霊の話しに花が咲き、いかにも正月らしき気分一室に満ち、共々笑ひさゝめく。閉会に近く加藤先生の琵琶唄桜狩には一座静かに其妙音に酔たり。時に九時三十分。

二月二十四日、日曜日〔設楽印〕

天候、今日は外出日和だよと云ふ声がそつこつに聞か
る、。全くその通り。

行事、日曜日は例に依つて例の如く森閑たる事必せり。

加藤先生は柏倉門伝村に講演に行かれ、午後三時頃
お帰りになる。今日より半搗米初まり、炊事係の熟
練の結果優秀なるお飯を頂いた。帰村の講習生帰舎
す。

二月廿五日、月曜日〔設楽印〕

天候、うらゝかに晴る、一日や山笑ふ

旧正月十五夜の月団々として奥羽脊髓山係(マ)ねざる
がごとし。碧空深澄。

行事、第一二限ハ野副先生の日本外史講義、第三四限午
後一限ハ加藤先生の肥料の話にして草木灰、魚肥、
硫酸アンモニヤに付説かる。久しく休業中の自治の
湯、今日より開業、面白く嬉しくボチャボチャ心身
の汚れを去り大掃除に浄めた寮内で勉強。

二月二十六日、火曜日〔設楽印〕

天候、曇天は雨となり風となり物さびし。

行事、第一二限は加藤先生の農村経営、第三四限は井芹
技師の苹果栽培法に付、午後一時半より詩吟。

西置賜郡青年会視察団一行七名来所。午食を共にし
夕方かへる。

二月廿七日、水曜日〔設楽印〕

天候、雲りし空も遂に晴れ渡り春風吹く。
行事、第一二限立岩先生の林学大意にして森林の効用に
付、間接と直接との二つに別れ、続く第三四限は加

藤先生の肥料の話。午後二時より又一時間丈肥料の

話あり。

二月廿八日、木曜日〔設楽印〕

天候、若返った寒空よりは雪ふり来る。

行事、第一二限は加藤先生の農村経営、清水及衛氏の農業経営方針、労力分配の説明。第三限は村松先生の産業組合、午後二時より立岩先生の林学大意あり。

三月一日、金曜日〔設楽印〕

天候、相変わらず小寒く雪もふる。

行事、午前八時千歳公園内に鎮座まします招魂社に参拝す。社は戊辰の役、西南戦争の戦死者の霊を祀る。

第一限は野副先生の日本外史、第二三限は村松先生の産業組合講義。午後七時半より詩吟。

午後七時より茶話会開催、三島通り郵便局長お出でになり、郵便電信電話二付、又簡易保険貯金等に付、種々統計により説明せらる。九時閉会す。

西村山郡柴橋村安孫子順三氏入寮す。

三月二日、土曜日〔設楽印〕

天候、小寒き風吹けども何もふらず。

行事、第一限加藤先生の産業組合講義、九時出発三日町

なる県立養徳園参観二行く。野副先生、井上書記引

率、阿部園長のお話しあり。園の例規、及実写エハガキ、雑誌はまれの花等を各人に配られ、又茶の馳走になる。園内隈なく参観す。十一時半帰途に就き、

午食後帰省する者多し。

三月三日、日曜日〔設楽印〕

天候、晴れ渡る空には春風僅かあり。

行事、朝より外出する人多く、寮内寂然たり。市内宮町に鎮座まします月山鳥海神社祈年祭に参拝する生徒も数名ありき。

三月四日、月曜日〔設楽印〕

御天気、片雲だになくいと心地よい空模様。

行事、第一二限は野副先生の日本外史講義、第三四限は加藤先生の農村経営にて、清水及衛氏の農業経営方針を説かる。午後は一三の組は実習にて農場に肥料

運搬、二四組は大掃除。船越先生は風邪の為か兩三日前より静養遊ばされつゝあり、又加藤先生も身体に故障あるも絶へて御教鞭をとられつゝあり。

三月五日、火曜日〔設楽印〕

天候、今日は又昨日にまさる日和かな

行事、第一限は加藤先生の農村経営、第二三限は県下の

農業にて農事試験場の玉山技師の品種改良に就て。

午後第一三組は実習縄綱ひ、第二四組は武道。

米沢の伊佐早先生御出でになる。

佐藤莊助氏風邪の為一日静（トラス分室） □ 療養す。

三月六日、水曜日〔設楽印〕

天候、晴天春風ゆるくふく。

行事、午前八時より十一時半迄伊佐早先生の御講話、先

生は有名なる漢学者にて而も現代希に見る人格の人、

孔子の教を引用して人間の修養学問は死ぬる迄間断

なくなすべきものである事を解かる。本月末に又お

出で下さると約してお帰りになる。午後一時より詩

吟、二時半より有志の武道。

三月七日、木曜日〔設楽印〕

天候、晴天なりき。

行事、第一二限は加藤先生の農村経営にして農会に付説

明さる。帝国農会、道府県農会、市郡農会、町村農

会の存在、各連絡関係事業の説明。第三四限ハ野副

先生の漢文成績考査。午後一時半より立岩先生の造
林学、二時半より生徒全部種痘をやる。

三月八日、金曜日〔設楽印〕

天候、春の山 浅黄の空に聳ひけり

行事、種痘の為め武道休みにて何となく静かである。第

一二限は野副先生の日本外史、第三限は加藤先生の

農村経営、道府県農会の事業に就て、第四限は大麻

先生の憲法講義にて臣民の三権利と二義務に付、例

の種々なる方面引用的の御講義を承わった。今日に

て国家の主体たる天皇、領土、臣民の講義を了ひら

れ、次は行政機関に移る由。午後は全部実習農場行、

温床造り作業は三四組、一二組は小白川裏山に木葉

集めに行く。五時頃一同帰舎。

三月九日、土曜日

天候、春の山 只うら、かに 聳ひけり〔設楽印〕

行事、午前八時より第一三組は加藤先生引率の許に農

場に温床作業に行き大活動して、午後一時過ぎ帰る。

第二四組は野副先生引率して市内円応寺なる金〔山

五〕醬油醸造場参観に行く。奥羽出羽北海道にて最

も送石高多き事なれば其規模の大なる事驚くの外なし。一ヶ年の消費麦大豆は各五千石、塩は五十貨車を費ふ由。二十四石入の桶が八百本あるとは最も感激して聞いた一つである。設備の完全なる事、各自分担の活動ぶりには誠に言ふに言われぬ感動を能へられた。十時帰舎す。

鈴木賢治君、ある雇人が身上に突発したる事情の為、急遽今朝五時出發す。

渡辺順一郎君、菅野賢蔵君、島津隆吉君、大木喜蔵君、佐藤仁吉君、帰省す。

三月十日、陸軍記念日、日曜日〔設楽印〕

天候、どんより曇り加ふるに風さへ交り寒し、小雨は遂に夜に入りて本降りとなる。

行事、午前九時より山形連隊区司令官江田中佐殿の軍事講話あり。日露戦役の原因より説き、旅順、奉天の実戦に参加せる話を事細やかに説かる。遂に話了つて吾人青年への希望を述べられ、十一時半全くお話を了ひ食堂にて夕食を共にせらる。又同時に今回補充兵役として仙台野砲隊に入営すべく退所の止むな

きに至つた五十嵐金次郎君の送別の宴を兼ねられた。天皇陛下の御光の下に五十嵐君の弥栄を三唱した。連隊区司令官参列の送別を受くる氏よ、国家有事の秋、それ如何なる感かあらせらるゝ。予等一同は双手を挙げて氏の前途を祝福して止まざる也。

三月拾壹日、月曜日〔設楽印〕

天候、昨夜より降り続きたる雨はなほ止まず。一日ふりみならずみ定かならぬ空なりき。

行事、五十嵐君六時出發す。井上さんを初め、庄内出身の草島、齋藤、佐藤の三氏及設楽氏、全生徒を代表して停車場迄観送す。^(マ)六時五十七分發下り二番列車にて氏は帰郷の途に着く。やがて汽笛一声、汽車は互の名残を奪ひて軌り出ず。姿見えざる迄五十嵐君は車窓より半身を出して莞爾たりき。国家の為行く君よ、弥栄を祈る。

第一二限は野副先生の日本外史講義、第三四限ハ加藤先生の農村経営、道府県農会、郡市農会に付き。午後二時より一時間詩吟。大掃除をなる。

三月拾貳日、火曜日〔設楽印〕

天候、小寒き風は春を忘れたるがごとく吹き、時々は雪さへ交りたる。

行事、第一限加藤先生の農村経営、町村農会に就て、第二限は野副先生の作文、友人の放蕩を戒む文、第三限は松岡農事試験場長殿の県下の農業、挿秧分蘖、土性調査に就て。兼てより待ちに待ちたる山田先生、本日午前九時幾分御着形相成、加藤先生停車場迄御出迎え遊さる。午後二時より武道室にて御挨拶なされ、生徒の武道を御覧の上、種々型に就て有益なる御注意及び御話しを承はった。

参月拾三日、水曜日〔設楽印〕

天候、寒い風吹くも降らず。

行事、第一二限は立岩先生の林学大意にて森林の効用、木材利用の趨勢を種々参考に依つて説かる。第三限初め大野法学士の挨拶あり。後、加藤先生の産業組合の歴史にて吾国の産業組合の前身たる三倉制度、感恩講等に付説かる。午後一三組は山田先生指南の許に武道、二四組は実習農園にて温床作業。夜は茶話をやり山田先生の恩師神原健吉先生(師)に付、種々

逸話を述べられ、何れも皆感動せざるべからざるもの、みであつた。十時閉会。

参月十四日、木曜日〔設楽印〕

天候、晴朗にして風少しあり。
行事、第一二限は大野法学士の法制講義、刑法に付き、第三四限は立岩先生の造林学、午後一三組は実習温床作業、二四組は武道をやる。

三月十五日、金曜日

天気、朝来全く澄み渡り一点の雲もなく近頃珍らしき好天気なり。

行事、早朝生徒全部祓をなし心身の垢を祓ふ。午前八時より熊野神社へ参拝に行きたり。帰所直に漢文の講義あり。第三限第四限ハ山田先生の修養の順序に付御話しありたり。□□(二文字位空き)氏の十牛修養ニ付具体的ニ述べられ実に有益ニして皆を感動せしむる事夥し。次に修養の極致とも称すべき先生の心霊の実験の御話しあり。之又面白く修養の偉大なる力を生ずるものなる事を得得せられたり。午後は一三組は武道、二四組ハ実習(牛糞運搬、耕鋤、温床用土篩)あり

たり。今日は風呂沸したので直に入湯す。実習の疲
勞一掃せられ心地良かりき。

三月十六日、土曜日

天候、朝より雲^(マユ)り肌寒し

行事、第二限ハ大麻先生の自治行政（帝國議會）ニ付御

講義ある。第三限第四限は二四組は武道、一三組は

山五醬油醸造場へ參觀に行く。井上長六君帰宅ス。

午后は外出するあり。武道を励む等種々あり。加藤

先生西村山郡へ出張せらる。

三月十七日、日曜日

天候、曇天にして風強し

行事、午前中山田先生、舟越先生御指導のもとに武道を

励む。先生と皆一本づつ仕合をなせり。午后より早

大^(一字位をき)□教授、理学士阿部良夫先生の物理学の講義

ありたり（物理学發達の歴史の概要及び光波に関し

例を引き詳細に説明せられたり）。加藤先生には出

張の処婦所せらる。

三月十八日、月曜日

天候、曇天

行事、午前中、小平先生の農業関係行政機関及農業警察

に付御講義アリタリ。午后は同じく県会議事堂に於

て小平先生の戦時に於ける農業政策及戦後の政策に

付御話しありたり。我々農民は須く国家的觀念を以

て活動せざれば国家の隆盛を計る事は出来ぬと深く

感じたり。午後七時より茶話会開催す。小平先生の

支那の漫遊談及び支那の現状に付説かる。九時半閉

会す。

三月十九日、火曜日〔設楽印〕

天候、極上々のお天気にて有。

行事、第一二限は阿部先生の光のお話、董外線、赤外線、

電磁波、無線電信及電話ニ付。第三限は小平先生の

農業警察の講話。午後二時より山形県庁にて小平先

生の講演。最近農業政策に就て、羊毛の自治、綿、

米価調節等に付き。四時かへる。後二四組武道をや

る。夜は図書室にて山田先生の剣道に就ての有意味

なるお話しありたり。

参月二十日、水曜日〔設楽印〕

天候、雪粉々として降りしきる空は漸次烈風のため吹雪

と変じ、地上真白になる程積る。彼岸桜の散るなるか。

行事、第一二限は阿部先生の講話X線及放射線に付、第三限は小平先生の講演、農地に於ける農業政策、農業交通政策、農事指導奨励に関する政策、農事の試験研究に関する政策、農業保険政策に付。午後二時より阿部先生の物質の構造、科学の本質に就ての講義後、二四組の武道五時迄、六時小平先生お帰りになり、加藤先生お送りす。夜は七時より茶話会あり。阿部先生の物理学に就てのお話し、又各自の質問等あり。十時閉会す。茶話会菓子代の内ニ加藤先生より一円頂く。

三月廿一日、木曜日〔設楽印〕

天候、風や、烈しけれども空晴れ渡り流石に争れぬ彼岸会にぞある。

行事、午前八時より正午迄各組共武道をやる。午後休課。

加藤先生午前十一時出発、東置賜郡屋代村に講演相成、直に東京、愛知県方面に来るべく本日廿六日頃帰所の予定。阿部先生は午後六時廿分の上りにて帰

京。

三月廿二日、金曜日〔設楽印〕

天候、荒れに荒れて吹く風、降る雪、実に彼岸の節とも思はれず。偶二晴るれば盃山一帯の山真白く、木々に咲く六花美しく。

行事、第一二限は立岩先生の林学大意にして杉赤枯病駆除予防法に付、第三四限は野副先生の日本外史講義。午後撃剣をやる者、及県庁に堀先生の病理学講義を聞きに行く人もあり。

三月二十三日、土曜日〔設楽印〕

天候、風強くして曇る風の（雨）き声、恐ろし
行事、炊事当番を残す外、全部農場行、人糞運、牛糞運、温床作業十一時かへり、入浴して牛肉汁にて大に喰ふ。午後休み、帰省者多く、又撃剣をやる人、野副先生宅に詩吟会を催す人あり。

三月二十四日、日曜日〔設楽印〕

天候、朝よりほのかに晴れたる空は日高くなるにつれ、ますます澄み近來見ざる好天気也。

行事、天氣の晴朗に日曜の事なれば外出する者多く、寮

内ひっそり閑たり。

参月廿五日、月曜日〔設案印〕

天候、昨日よりかけて余りに暖かなりしが、午後よりかけて曇り、遂には夕方より雨となり、夜に入りて□
烈し。

行事、第一限は日本外史、第二限は詩吟、第三四限は荒木技手の桑樹栽培講話、緒論より、養蚕と桑葉の關係、蚕児と桑葉の關係を説き、桑園改良に至る。今後毎週お出でになる由。午後大掃除武道。

三月廿六日、火曜日〔設案印〕

天候、昨夜の雨晴れやらぬに夜は明けぬ。雨晴れたる頃は風吹き、雲とぶ空凄し。

行事、第一二限は荒木技手の桑樹栽培法講話、桑園の設計、桑の品種に付。第三限ハ農事試験場の高村技師の桑の話、苗木鑑定法、古木改良仕立方、午後一二限ハ荒木技手の桑の栽植ニ付講話あり。

三月廿七日、水曜日〔設案印〕

天候、寒い風吹く曇り勝の空なりき。
行事、第一限は立岩先生の林学大意にして、測樹学を講

義せらる。其れより三泉村青年会来りし為武道をやる。交互三時間に渡り全力を尽す。十一時頃加藤先生旅よりお歸りになり早速武道をやる。道中變りなくニコニコとして嬉しい顔を見しは実に満足なりき。午後一時より県会議事堂に彼の有名なる青島軍の勇将堀内中将閣下、曹洞宗管長日置黙仙師、秋野大学林学長の講話を聞く。堀内將軍のは將來の世界民族戦ニ付、日置管長のは信念に就て、秋野学長のは正念に付、五時半閉会。夜は茶話会あり加藤先生のお土産話し、又山田先生の有益なる教訓談数種あり。

三月式拾八日、木曜日〔設案印〕

天候、晴朗一点の雲抹なく春の小風戦ぐ。
行事、第一限大野先生の法制、刑法講義、九時整列、歩兵第三十三連隊軍旗祭拝観に行く。加藤先生野添^{野添}先生引率、兵營に至れば幾万と云ふ人出。吾々は特別団体席に案内され、開式を待間程なく軍旗は宮庭に進まれ、大川連隊長の祭詞、最敬礼、分列式、模擬戦、軍旗祭歌にて式を了ひ、然ル後余興、仮装行列、

花角力、手踊等、種々なる催しあり。又各中隊思ひ思ひの飾物は時局を諷刺して余□^前あるもの、如し。生徒解散す。午後は遊覧する者あり、又帰りて武道を為しものあり。置賜の卒業生高橋さんの率ゆる青年会員来り武道をやる。秋田県由利郡の小学校の先生来り宿泊して研究する事となる。夜は山田先生のお話しあり。法定一二本目の説明、十時閉会。加藤先生西村山郡青年木余に講演に行き七時お帰りに本。五十嵐金次郎君入當の途中来泊。翌朝五時出発。

〔見せ消ち、設楽印あり〕

参月廿九日、金曜日〔設楽印〕

天候、ポカポカとして暖かき空は九天に澄む。
行事、第一限は加藤先生の旅行視察談にして、静岡県沼津町の駿東郡青年大会の模様より安城農林学校の現状を説かれ、又関東地方人心の戦争気分^にに充溢せる事を説かれ、九時より寒河江の郡青年大会に講演に赴かる。十時より長沢地方指導の講演、自治の実を挙ぐる要素に付、一事敢行、民心集中等を説かる。
午後二四組は農場行、果樹園菜園の打起し、一三組

は武道をやる。夜は茶話会開会、山田先生の法定三四本目二付お話しあり。十一時閉会。五十嵐君入當の途お立寄りになり翌朝出発。

参月卅日、土曜日〔設楽印〕

天候、夜来の細雨黙々としてふり、実に心地あしき空。
行事、第一二限は大藤先生の憲法講義、天皇の統治機関にして立法予算に参与する帝国議会の開会停会閉会解散を説き、議員の特権に至る。十時より武道となる。一時迄午後も亦有志武道。

参月卅一日、日曜日〔設楽印〕

天候、朝の内雨少しふる、後曇り勝
行事、正午迄武道、午後休む。

四月壹日、月曜日〔設楽印〕

天候、晴天、小風あるのみ
行事、午前八時整列、県社湯殿山神社に参拝す。九時より野副先生の日本外史、十一時より山田先生の運歩術のお話しあり。午後は一三組の農業実習、二四組は武道、記念写真帖製作のため田中写真師来り、山田先生、武道室講堂を撮影す。

四月式日、火曜日

天候、晴天あり、実にホノボノ〔設楽印〕

行事、午前各人の武道を山田先生、加藤先生の面前に於

て行ふ。午後は山田先生の送別会をやる。卒業生五

名来る。山田先生の法定に就てのお話しあり。紀念

品として花瓶壹個ヲ贈呈す。六時半閉会。

四月參日、水曜日、神武天皇祭〔設楽印〕

天候、晴れたるのみならず温暖にして春風蕩々たり。

行事、休日の事なれば帰省するもの多し。十時過迄残れ

る生徒に山田先生の武道指南あり。愈々先生は御帰

京なさるに付、生徒は停車場迄駆足にて送る。拾壹

時拾六分上り千八百六十九号列車にお乗車遊ばされ

生徒の弥栄の声と共に高く々々汽車は汽笛一声、翠

濃き千歳の山に飮して東の都をさしてぞ軌り出ず。

三週間のその間、朝な夕なの御薫陶実に有難しとも

有難し。只何となく名残の惜れて、午後農場にて実

習をやる。

四月四日、木曜日〔設楽印〕

天候、朝小寒く曇りしが八時頃より晴れ暖かし。

行事、朝食後直に出発、農場実習、午食は車にて運び鯨

を焼き皆々楽しく農舎内にて喰ふ。十杯位やりたる

人もあるらし。午後五時帰舎。

四月五日、金曜日〔設楽印〕

天候、相変らず晴朗にして心持よき日也。

行事、第一二限野副先生の日本外史講義、第三限は大麻

理事官の憲法講義、国務大臣と枢密院に付て説かる。

第四限群馬県清水及衛先生の御挨拶あり。午後一三

組は果樹栽植の実習、二四組は大掃除及武道をやる。

⑦山田先生よりお手紙頂く。

四月六日、土曜日

天候、朝来雲り勝にて午后雨降り模様になりたれ共降ら

ず。

行事、第一限は加藤先生の経済学、第二三四限は清水先

生の社会文明と農村問題及び農家類退〔マコ〕の経路に付御

話しありたり。午后帰宅せしもの多数ありたり。

四月七日、日曜日

天候、早朝より小雨降り終日止まず。

行事、日曜の事として外出するものもあり。種々あり。加

藤先生、清水先生、井上先生、海保君の一行、最上郡の不毛地視察に行き、午后六時頃帰舎せらる。

四月八日、月曜日

天候、曇天

行事、午前中清水先生の産業組合経営の方針二付、根本観念より詳細に御話しありたり。午后は掃除をなし午後二時間ばかり清水先生より午前中の続きを御話しありたり。夜は清水先生の歓迎会をなし、野人会の事に付、御話しを願たり。閉会せるは十時過ぎなり。

四月九日、火曜日

天候、午前中は一点の雲もなく、近頃なき温暖なりしも、午后は曇天となれり。

行事、第一二限は清水先生の農家々計方法の改善に付御話しあり。第四限ハ大野先生の刑罰□の目的及び刑罰法令に付御講義ありたり。午后は同じく清水先生の農人と産業組合に付御話しありたり。しばらく後野副先生辞職せらるるむね御話しあり。突然のなるに驚く。我々の為惜しむ可き事なれ共仕方なき事な

り。

四月十日、水曜日

天候、雨天

行事、午前中は清水先生より産業組合に付御話しありたり。午后は瀧山村へ行き村民と共に清水先生より産業組合設立の注意に付ての御話しを聞きたり。往復には雨天の為閉口せり。

四月十一日、木曜日

天候、曇天

行事、午前中清水の産業組合に付、午后は立岩先生の林学に付御講義ありたり。夕食には野副先生、松岡先生、清水先生、菊地君、西澤君、御出の上、形ばかりの野副、清水先生の送別の会食をなし、後、清水先生をステーション迄見送りをなせり。弥栄を三唱し先生を祝福せり。

四月十二日、金曜日

天候、晴天

行事、朝食後直に農事試験場へ行き井芹先生に付果樹剪定の实地研究をなす。昼食は農場にておいしい事夥

し。午後は馬鈴薯播きをなし午後五時過帰所せり。

四月十三日、土曜日

天候、晴天

行事、午前中農場にて馬鈴薯播き玉葱播等をなせり。午

後は明日よりの旅行の準備等をなす為外出するもの多し。

夕食後野副先生を御見送りをなす為加藤先生、井上先生、生徒総代として設楽君停車場へ行きたり。

四月十四日より秋田旅行

留守日記 井上〔井上印〕

四月十四日、日曜日

天候、春ノ長閑ケキ日□^(除く)、今日ノ日曜日ヲ楽シマン□

可ク充分也。花ハ無ケレド天気ハ花曇リ。特ニ午后

ハ暖ク流汗ヲ覚ユル位ナリキ。夕陽千鳥足ノ公園散

歩ノ客ハ忙ガシキ日暮ノ街ヲサモノンキサウニ。

行事、午前三時半起床、四時整列、四時二十分出発、同

五時山形駅発列車ハ我舎二十五名ノ健児ヲ載セテ北

へ去ル。残ルハ三名、工藤君ハ午前九時頃帰省ノ途

ニ就ク。河合君ハ農場へ堤ノ草^{きへんのみ}□、多忙トカ。

午前中ハ一人留守居ノ大掃除、大イニ働キシ自転車

モ今日油ヲ喰ヒ日曜日ヲ知ル。午後ハ二時頃長澤県

属訪問セラレ、同四時半頃迄居ラル。午後八時にハ

消灯。

四月十五日、月曜日、井上〔井上印〕

天候 夜來の降雨八時頃ニ至り全ク霽レ渡リ、新ナル元

氣ヲ以テ草モ木モ動物モ活動ヲ起ス。

行事 二人残りシ中、川合君ハ農場へ、一人留守居番。

四月十六日、火曜日、井上〔井上印〕

天候 今日ハ旅行中ノ諸君ハ本庄行^(本庄)十余里ノ道中、天佑

晴天、風稍強キモ害ナク諸君ノ元氣一層ナル可キヲ

意思ス。

行事 午前中川合君、午後ハ余農場ニ行ク。

四月十七日、水曜日〔井上印〕

天候 日中ハ日本晴ナリシモ、夕方曇出^(ついで)テ雨サヘポツ

ポツ落ち旅行中ノ諸君ハ本庄ヨリ十七八里ノ行程未

ダ途中ナル可キ二雨トハト思ヒ居ル中、止ミテ晴ル。

胸擦リ下ス。

行事 船越、川合両君楯岡農学校ニ行キテ、残ルハ只一

人事務室二番人。来客、西村山郡及同郡農学校校長高野氏。

四月十八日、木曜日〔井上印〕

天候 天気晴朗、前ノ梅花、税務署側ノ桜花、春ヲ証ス。

行事 午前中川合君ハ農場、午后ハ風呂、食事ノ準備、

停車場ニテ団体来タ来ラズトノ事ニ失望セシモ、七

時十分旅装ノ勇士ハ拾数名（他ノ人ハ帰省シタリト

ノ事也）。我寮ニ帰ル。来客、第二期生菊地嶷之助

君。

四月十九日、金曜日〔設楽印〕

天候 天気快晴、軟風温かく梅花競ひ咲く。

行事 生徒は設楽を残し外全部帰省。河合、古橋、井上

の諸君農場に活動す。加藤先生は午前中独力掃除を

やり、午後農場行。夜茶話会をやる。

四月廿日、土曜日〔設楽印〕

天候 快晴、春風駘蕩。

行事 設楽を残す外、加藤先生はじめ農場行。午前北村

山郡東郷小学校職員二名參觀。

四月廿一日、日曜日〔設楽印〕

天候 快晴ニシテ日曜の事なれば郊外散策する人頗る多し。

行事、加藤先生、井上、川合さん、農場行。午後加藤先

生、山辺町なる佐藤仁吉君を見舞に行く。夕方になり帰

所する生徒、数あり。川合君六時の汽車で帰郷す。

四月廿二日、月曜日〔設楽印〕

天候 午前晴れ、午後雨ふる。

行事 第一二限加藤先生日本外史をやる。第三四限ハ経

済講義、午後大掃除、室内舎内丈。舎外ハ降雨の為

中止となる。

四月廿三日、火曜日〔設楽印〕

天候 一日雨風の空なりき。

行事 第一二限加藤先生の農場作物栽培ニ付、第三四限

ハ松岡先生の県下の農業にて、除草耕地整理、開墾

の事に付、午後二時より加藤先生農場作物栽培ニ付。

四月廿四日、水曜日〔設楽印〕

天候 晴れみくもりみ定まらず。

行事 第一二限ハ農場作物に付加藤先生のお話。第三四

組（ハト）ハト部先生の法制、午後舎外清潔をやる。

四月廿五日、木曜日〔設楽印〕

天候 晴天、桜桃梅李咲き揃え春の盛りとなる。

行事 第一二限ハ加藤先生の農村経営、地代農場、地代

銀行に付、十時より農場にて実習、第一組ハ牛蒡蒔、

第二組ハ甘藍定植、第三組ハ菜園の取入、第四組ハ

葱定植す。夜茶話会あり。秋田旅行談に花が咲く。

四月廿六日、金曜日〔設楽印〕

天候 八時頃より降り出だせす雨は日ねもす晴れもせで

花うなたるし。

行事 第一二限ハ立岩先生の林学大意にして造林法を了

ひ測樹法をやる。第三限ハ時間の都合上井上書記殿

の東北凶作の原因二付、一時間説かる。午後一時よ

り高等師範学校長嘉納治五郎先生御出でになり県会

議事堂にて講演あり。入場者は県立男女学校生徒大

多数を占め、将校警察官等も打交り立錐の余地なか

りき。嘉納先生のお話しの大要は、国民のとつて立

つべき道は宗教に非ず。哲学、学説に非ず。只明治

天皇陛下の賜わりす教育勅語こそ古今東西に施して

以て明かなる臣民のとるべき道德である故に、吾人

は各々其道に依り真面目に励みなば、世界の強国何

ぞ恐るゝに足らんとの事である。又婦人にとるべき

道、学生の質素にすべき事を説かれ、精神修養、身

体鍛錬に柔道の必要を講ぜられた。それより柔道の

実施に付説明せらる。四時閉会。加藤先生六時の汽

車にて庄内の卒業生会に出席すべく出発す。

四月廿七日、土曜日〔設楽印〕

天候、一日雨、霏々としてふる。不快なり。

行事、午前六時朝食、八時迄桑の接木を習ひ、それより

東村山郡金井村々政視察のため出張、役場楼上にて

日下部村長、五十嵐助役の懇切なる説明あり。茶菓

の馳走ありて十二時帰途に着く。一時帰舎す。

四月廿八日、日曜日〔設楽印〕

天候、昨日迄ふり続ける雨はれ、天界晴天。

行事、皆観桜のため外出する人多し。加藤先生お帰りに

なる。工藤義夫君病氣にて帰郷。

四月廿九日、月曜日〔設楽印〕

天候、晴天なり。花満開、花見る人出夥し。

行事、第一二限ハ加藤先生の経済、人口に付説かる。第

三四限大麻先生の憲法講義、司法構(種)に付説かる。憲法は今日にて了りとなる。午後一時より七時迄農場にて実習。第一組桑木剪定、第二組耕耘、第三組ハ果樹栽植、第四組ハ夏大根、里芋蒔き。

四月三十日、火曜日〔設楽印〕

天候、午前晴天なりしが、午後より曇り烈風吹く。

行事、第一二三限共米穀検査所長林技師の農業倉庫の講話あり。十一時中食、十二時全部農場行、一組桑園耕耘、二組桑園剪定、四組葱、大根蕪の種蒔せり。病気にて一ヶ月以上休み居りし佐藤仁吉君今日かへる。風邪にて休養する生徒数あり。

五月壹日、水曜日〔設楽印〕

天候、曇り勝にて時々小雨ふる。

行事、千歳公園なる招魂社に参拝す。桜花を愛でつ、四阿(あずま)に雨宿りして加藤先生より庄内渡辺氏の養鶏法を聞く。九時より立岩先生の簡易測量学、十時より加藤先生の農村経営、午後大掃除。

五月貳日、木曜日〔設楽印〕

天候、はれたれども西風強くふく。

行事、七時半より三十分間加藤先生の日本外史講義、八時より十時迄大野先生の刑法講義、十時より林先生の農業倉庫のお話し、午後農場実習。午前十一時文部省視察団一行十名參觀せらる。

五月三日、金曜日〔設楽印〕

天候、桜は散りて青葉になる。風ヤ、強くふく。

行事、第二限加藤先生の日本外史講義、第三限は農村経営の筈なりしが、加藤先生の土壤学をやる。午後第二四組九名農事試験場に果樹園耕耘の応援に行き、五時迄活動して茶菓の馳走になりてかへる。残部は農場にて実習せり。

五月四日、土曜日〔設楽印〕

天候、晴れに晴れて温暖なる事夥し。

行事、第一限加藤先生の農村経営に付、児童教育と初等教育を説かる。第二三限は経済人口に付、国家と国民経済の関係を説かる。十一時に終了、休みとなる。午後帰省する人八名あり。寮舎森閑たり。加藤先生六時の汽車にて上京せらる。

◎佐藤仁吉君、佐藤文治君、病気の為帰郷療養する

事となる。本日出発す。

五月五日、日曜日

天候、朝は曇り勝ちにて正に雨の降らんずる模様なりし

も、漸々晴れ渡り十時頃よりは晴天となりぬ。

行事、師範の運動会ありしが故、大部は之れを參觀し、

他は自治寮の安寧秩序を妨げざる限りに於て自由行動を取りたり。

五月六日、月曜日

天候、夜中よりふり出す雨も今日招魂祭の花火の音と共に

晴れ渡り朝日の昇る様勇ましき。

行事、招魂祭の爲め課業お休み、自由参拝をなし、午後

も外出する者多し。

五月七日、火曜日

天候、晴天

行事、第一限二限は穀物検査所長林氏の米券倉庫に付き

ての講義なり。十時より農事試験所長松岡氏の稲田

二毛作に付きの講義ありたり。午後より農場実習な

りしが、帰省せし者及び病気の者ありしが故、出席

者少し。一組三組は農場周囲の堤開墾、二組四組は

⑧ 豌豆の除草施肥、及其の垣作り、三時半頃より桑園耕耘をなし五時半帰所す。

五月八日、水曜日

天候、夜中よりふり出せし雨は晴れもやらず喜びしは草

木のみならん。十時頃より漸時薄らぎ午後は曇り勝

ちなる晴天となりぬ。

行事、第一二限は立岩林学士の測量学を学び、それより

東京第一中学柔道の先生萩原氏の講話ありたり（北

海道視察帰へり途中）、午後は実施に御教授ありた

り。午後六時の汽車にて御帰マヅルへになりたり。

五月九日、木曜日

天候、晴れ渡れる空には早夏気を催す。

行事、第一二限は大野法学士の法制学にして十時より都

合により講師なきが故、大掃除を行ふ。午後より実

習、第一組は周囲開墾、二三四組は桑園耕耘、及イ

チゴ植え等をなす。六時頃帰所せしが、風呂破損せ

し為め入浴なす事能はず、がっかりせり。

五月十日、金曜日

天候、曇り勝ちにて今にも降り出さん模様なりし。午後

よりは少雨降り、うつつとして気分悪し。

行事、第一二限は井上先生の東北凶作に付きの御話しあり。加藤先生は今朝東京よりお帰りありたれば、十時より種々の御土産話あり。

午後より三島郵便局長大場氏の貯金に付きの御話しあり。四時頃より茶話会を開催す。先生の土産の菓子沢山ありたれば有難く頂戴す。

五月十一日、土曜日

天候、午前中は小雨にて午後は曇天なりき。多少の西風ありて寒し。

行事、一二限は井上先生の東北凶作に付きの続き講演あり。今日を以て終了す。十時より加藤先生の経済学（生産論）御話しありて、午後より休み。久しく休み居りし草島君帰所して曰く、徴兵検査の首尾歩兵甲種合格なりと。

五月十二日、日曜日

天候、晴天にして暑き事夥し、西風あり。

行事、今日は日曜なれば盃山千歳山等に登山する者多く、皆愉快に活動す。久しくして風呂を立つ。

五月十三日、月曜日

天候、むし暑くして気分悪しく夕方より大粒の雨ぶつりぶつりと降り出す。

行事、朝先生の自ら生徒と共に大掃除を行ひ後六時半迄武道をなす。七時半より先生の日本外史、一二限は先生の農村経営教育に付き御話しあり。十時より大麻先生の市町村制の御話しありたり。午後より農場実習、除草及葱施肥を行ふ。夕方より雨ふりたれば濡れて五時半頃帰所す。漸く帰省ありし設楽君、午後七時頃来る。

五月拾四日、火曜日〔設楽印〕

天候、雲足繁く危まる、空よりは寒き風に送られて雨ポツリポツリ来る。

行事、第一限加藤先生の日本外史、第二三限は農村経営にして専ら補習教育に付説かる。午後実習、第一組は甘藍の除草施肥、第二組は西瓜蒔付、馬鈴薯の手入、第三組は陸稻蒔き、第四組は南瓜畑をつくる。

五月拾五日、水曜日〔設楽印〕

天候、風少し吹けども空晴れて初夏の気分漲る。

行事、神社参拝日なり。県社湯殿山神社に参拝す。第一

限ハ村松先生の産業組合講話、第二三限ハ加藤先生の経済講義、午後農場実習、夜は県会議事堂に通俗講演会を開く。井出衛生主事の蠅と衛生〔傍線マ〕了りて薩摩琵琶の名手有馬正彦の楠正行、橘中佐の二曲を聴く。十時かへる。

五月拾六日、木曜日〔設楽印〕

天候、晴朗加ふるに炎熱、単衣猶凌ぐに難し。

行事、第一二限ハ加藤先生の日本外史、第三限は補習教育の内容に就て、農村経営の講義、第四限は村松先生の産業組合、午後実習。

五月拾七日、金曜日〔設楽印〕

天候、晴天なり。所謂お祭日和か。

行事、第一二限加藤先生の日本外史講義、第三限農村経営実業教育に就て、第四限経済労力に付説かる。午後休暇ニ付各自外出、薬師如來の祭祀に付、巨万の出入にて公園賑ふ。植木は六日町薬師町方面に数限りなく陳列さる。

五月十八日、土曜日〔設楽印〕

天候、晴朗にして炎暑甚だし。

行事、午前九時四十分迄日本外史講義、それより昼飯携帯にて金井村に村治視察に行く。日下部村長五十嵐助役の種々なる説明あり。四時かへる。帰省者多し。

五月十九日、日曜日

天候、快晴炎天なり〔設楽印〕

行事、日曜の事なれば郊外散歩の人多し。

五月廿日、月曜日〔設楽印〕

天候、夜来の雨繁くなり、十時頃より雲を残してはる。

行事、第一二限日本外史、第三四限農村経営、実業補習教育、経済労働に付、午後実習名の整理をなせり。雨の為四時止してかへる。

五月廿一日、火曜日〔設楽印〕

天候、晴朗、炎熱。

行事、午前九時迄、樋口、佐藤、玉虫、設楽の四氏及加藤先生、井上書記にて長期視察旅行日程考察。其他は自修。第一限は農村経営、教育に付、第二限は宿題たりし農家として知らざるべからざる事、発表、稲作上の意見に付討究。午後今朝の委員全部にて

又々旅行日程考案に従事、日没迄。午後西置賜郡西根村小学校生徒数十名參觀す。武道を見てかへる。

五月廿二日、水曜日〔設楽印〕

天候、晴れ過ぎるばかりに晴れ、暑さ烈し。

行事、早朝より中飯携帯にて農場に実習す。馬鈴薯の除

蒔^(施)肥、甘藍の手入施肥、其他、大根、葱等の手入、

大豆蒔等をなす。午前中田中写真師来場、実習の光

景及び農舎前に於ける農装の生徒全員を撮影す。

五月廿三日、木曜日〔設楽印〕

天候、晴朗にして初夏の気分翠に漂ふ。

行事、第二四組は午前九時迄糞尿の仕末をなし、第壱時

間目は加藤先生の経済、資本に付、十時山崎延吉先

生お出でになり、又卒業生大会日として卒業生諸氏

三々五々相集會す。佐々木内務部長、大麻地方課長、

長澤地方指導其他の來賓あり、午後壱時開會。加藤

先生の開會の辞に続きて山崎先生の人物の標準価に

就て、四時閉會。それより茶話會にうつり會員の名

乗會ひより長沢地方指導の最上郡豊里村の事蹟に就

きお話しあり。夕食は食堂にてト口、飯の御馳走了

りて然る後、加藤先生の音頭にて天皇陛下の弥栄を三唱、散會。

海保隆治君、今朝五時出発帰村せらる。

五月廿四日、金曜日〔設楽印〕

天候、晴朗々々。

行事、午前山崎先生の忠孝本義に就ての講演、午後も亦

四時迄、それより日没迄農場にて甘藷植の実習をや

る。

五月廿五日、土曜日〔設楽印〕

天候、風や、強き好日和なり。

行事、午前山崎先生の忠孝本義の講話、孝に就て。午後

一時より県會議事堂に県下産業組合總會に出席し山

崎先生の農村経営と産業組合に付講演を聞く。山崎

先生は六時二十分発列車にてお帰りになるに付、山

形駅に觀送す。

五月廿六日、日曜日〔設楽印〕

天候、天気晴れ長閑なり。

行事、五時起床整理、高湯温泉に向つて出発す。同行十

七名予定通り青葉の山を通り、初夏の気分漂ふ小農

村を過ぎ、九時着。入浴の競争、牛肉汁におまんまの競争、夜は十時迄茶話会あり。加藤先生より視察旅行に対する注意、婦人の警戒すべき事二付お話しあり。

五月廿七日、月曜日〔設楽印〕

天候、午前中は晴れしかども午後二時頃より雨となる。

行事、午後老時迄のんびりとしたる浴槽気分を味ひ出発す。同志平より雨に遇ひ半郷辺いよいよ烈く四時着寮す。

五月廿八日、火曜日〔設楽印〕

天候、天晴れ、南風、ふく。

行事、第一限日本外史講義、第二限土壤学、第三限又々

日本外史講義、午後一時より県会議事堂に海軍少佐益子殿の講演あり、潜水艇に就て、参時了。

五月廿九日、水曜日〔設楽印〕

天候、僅かなれども夜来の雨はれず、時々屋根瓦をた、

く蒸し熱き一日なり。

行事、第一限は日本外史、第二限第三限ハ農村経営、午

後一時半より又々経済、労働に付。

五月三十日、木曜日〔設楽印〕

天候、極上の天。

行事、第一限は日本外史講義、第二三限は大野先生の刑法講義、犯罪二付、第四限は加藤先生の農村経営、青年団に付。午後一時半より実習、第一三組は茄子畑の定植準備、第二組は胡瓜定植。

五月卅一日、金曜日〔設楽印〕

天候、炎天なり。

行事、第一限は日本外史、第二限は松岡先生の県下の農業、第三四限ハ大野先生の法制、午後農場実習。

六月一日、土曜日〔設楽印〕

天候、暑き事夥し。

行事、午前中日本外史をやり午後帰省者多し。加藤先生引率のもとに農事試験場に作物視察に行く。

六月貳日、日曜日〔設楽印〕

天候、曇り後晴れと云ふ天気予報当り。

行事、帰省する者、郊外散歩する者にて校内森閑たり。

六月參日、月曜日〔設楽印〕

天候、ちらりほらりと雨なれど、雨具用之る程にても非

ず。

行事、第一二限は加藤先生の日本外史講義、第三四限は大麻先生の自治制度、町村制に付、住民に就きて。午後農場実習、牛糞運び。又二組は桑園内の馬鈴薯の除草除薬をなす。夜七時より幻灯会あり。長沢地方指導の説明にて九州の忠臣菊地氏の事蹟を影写す。^(感) 佐々木内務部長、松岡農務課長、大麻地方課長外、県属数名外来賓多し。

六月四日、火曜日〔設楽印〕

天候、午前曇り勝にて、午後より天候險悪となり、三時頃より大雷驟雨来り夕方又はる。

行事、第一限日本外史の時間は加藤先生少々異体の為休み、各自自修、第二限は農村住宅青年団の娯楽に付、第三四限は松岡先生の県下の農業、養蚕、畜産等に付、午後農業実習大雨の為休み、三時切上、夜加藤先生の親友石本工学士殿来形を機とす茶話会開催、炭鉱山のお話あり。

六月五日、水曜日〔安孫子印〕

天候、夏と云へど朝は冷氣身にしみ夏なるを忘る今日一

日。昨日の驟雨の為天気よし、暑からず寒からず。

行事、第一限加藤先生の経済学あり。第二限産米検査所の阿部先生より稲作に關しての御話しあり。午後壹時頃全生徒講堂に参集、加藤先生よりの御話しを聞く。時八田植の期節なり。先生生徒の家庭を察しあらせられこ□多忙時期、吾等の休業を与ふ生徒帰省する者小半。

六月六日、木曜日〔安孫子印〕

天候、午前中は曇り十時頃大驟雨あり。午後快晴。行事、休日の事にて自治寮の健児帰省するもの多し。残れる人各自自修に一日を送る。

六月七日、金曜日〔安孫子印〕

天候、快晴 行事、西塔君帰省、午前中は先生と共農場で労働に従事す。昼食後も亦農場行。七時頃帰寮、寮生痛く疲れ果て、夜食後風呂に行く者多し。午後四時頃菅野君帰寮。

六月八日、土曜日〔安孫子印〕

天候、快晴なりしが蒸し暑き事限りなし。

行事、菅野君又も帰省す。寮生の残れる人は午前中先生

と共に農場に行く。馬鈴薯の土よせ、及ビボルドー

合剂調製して馬鈴薯に灌木、正午帰寮（井上長六君

帰省、朝四時）。

六月九日、日曜日〔安孫子印〕

天候、快晴

行事、午後四時頃自治寮に残りし人全部先生と共に茶話

の会を開き有益なる御話しを拝聴致しまして六時頃

閉会、工藤義雄君病気全快して帰寮、寮は帰寮せる

者五六人。

六月拾日、月曜日〔安孫子印〕

天候、朝より曇勝にして西風あり。午後六時頃より雨と

なる。

行事、第一限漢文（日本外史）、第二限加藤先生の経済、

企業の事に付て、午後より実習、陸稻除草及追肥。

馬鈴薯の土寄せ、蕪間引及び追肥、牛蒡、玉葱の追

肥、夏大根の収穫等。

六月拾壹日、火曜日〔安孫子印〕

天候、朝晴、涼風徐に吹き渡り、初夏の意を強ふせしむ。

午後五時頃小雨あり。

行事、第一限日本外史、第二限江尻さんの果樹に就ての

御講話、桜桃の試食あり。午後実習、馬鈴薯の土寄、

緑肥用大豆畑の除草及果樹園の除草等。

六月拾貳日、水曜日〔安孫子印〕

天候、曇り西風あり。

行事、朝五時より九時迄農場実習、桑こき、帰寮後長澤

さんの地方自治に付ての御話し。午後亦朝の続きの

桑こき。六時半頃終了。午後八時より加藤先生の経

済の講義。九時四五分礼拝後就床。

六月十三日、木曜日〔安孫子印〕

天候、曇り夕方より快晴となる。

行事、朝四時半に起床し桑収穫帰り、朝食したるは九時、

空腹を感じたる事甚だし。拾時より大野講師の学課、

午後一時半より先生の経済、三時より県会議事堂に

於て川村鱗成^(麟也)医学博士の恙虫^(マダコ)に関する有益なる講演

を聞き、五時過ぎ帰舎したり。

帰舎したる者、大木、玉虫、斎藤なり。

帰省したるもの、安孫子順三君なり。

六月一四日、金曜日〔渡順印〕

天候 朝四時起床シ摘桑ニ行カントセシガ、鈴ノ音ト共

ニ雨ポチリポチリト落ち来リ不可能トナル。以後終

日曇天、実ニ梅雨ノ候タリ。

行事、七時半ヨリ先生ノ古神道ニ就テノ話、十時ヨリ先

生ノ経済、午後摘桑百二十メヲ收穫ス。

六月十五日、土曜日〔渡順印〕

天候、曇天ニシテ時々微雨アリ。

行事、五時起床、一同祓シハ時ニ靖国神社参拜、其ノ後

正后^(ママ)迄桑收穫全部終了シタリ。午後ハ例ニヨリ休ミ。

帰省者、草嶋君、工藤君、最上君、井上君。

六月十六日、日曜日〔渡順印〕

天候、一点ノ雲ダモナク晴レ渡リ日中初夏ノ感ヲ覚ユ。

日曜ナルヲ以テ自由。然レドモ本日武徳殿ニ演武大

会アルヲ以テ十名バカリ先生ノ引率ノモトニ見物ニ

行ク。午後ヨリハ武徳殿ニ行クモノモ又丸馬場ニ自

転車競争ヲ見ニ行クモノモアリ、種々雑多。

帰省者、井上長六君、安孫^(安孫)順三君、安達君。

六月十七日、月曜日

天候 曇りて後晴る。

行事 五時起床、学科は農村経営、産業組合、昼飯を少

し早く食べ、午後より実習。三時半迄午後四時より

七時迄産業組合。

帰省者 佐藤文治君

帰省者 松山兵衛君

六月十八日、火曜日

天候 曇り小雨

行事 八時より学科産業組合法制、午後より実習七時迄。

帰省者 渡辺君、大木君、加藤君

帰省者 最上君

六月十九日、水曜日

天候 曇天

行事 本日及び明日の二日間休日の為早朝より帰宅する

もの多く、残りしもの六名なり。午前中農場実習を

なし午后は休業。

六月二十日、木曜日

天候 曇天

行事 午前中数名農場実習に行く。又農産物の販売をな

せり。夕方になりぞくぞく帰舎す。

六月二十一日、金曜日

天候 曇天にして東風強し

行事 午前八時より自治行政の講義あり。之れにて終れ

り。加藤先生外数名にて午前九時四十分の汽車にて

御來校せられる筧先生を御出迎へに行き、十時過御

着なられた。一先づ官舎にて休けの上午後一時よ

り午後四時に至る間、我が「皇国の精神」に付御講

演ありたり。大麻先生外短期生多数聴講す。講義の

進むにつれ益々真面目となり静肅に敬聴す。一言一

句感深からざるはなし。

六月二十二日、土曜日

天候 曇天

行事 午前中筧先生より皇国の精神に付昨日の続きを御

話しせられたり。祓と云ひ人生観と云ひ総言生気澆

刺として天に参上るが如き感あり。午后農場実習に

行く旁ら種々整理をなすもあり。

〔以下空白〕

* * * * *

〔表紙〕

自大正七年十月五日 至同十月卅日

日誌 第二回学校教員自治講習会

〔本文〕

日誌

十月四日、金曜日、晴、午後六時頃ヨリ降雨

集合 午後三時會員一同ヲ講堂ニ集メ加藤所長ヨリ入

所中ノ心得其ノ他諸慣例ニ関スル事、猶図書館

室ニ於テ招議ノ上委員六名ヲ選定シ万事周旋ス

ル事ヲ依頼セリ。

委員 庄内方面 服部正悌、邊見重次

置賜方面 梅津清芳、渡辺芳蔵

村山方面 青木松栄、高橋長五郎

礼拝 午後九時一同講堂ニ集合、二回敬礼二回拍手、

皇室ヲ想念シツ、敬意ヲ表シ各室ニ帰り就寝セ

リ。

十月五日、土曜日、曇、少雨アリ

起床 本日ニ限り五時半起床。昨夜定ムル処ニヨリ各

作業任務ニ就ケリ。始ノ事トテ稍々渋滞ノ感ア

リシモ、時間ヲ少々費セシ丈ニテ何等ノ支障ナ
キハ、所員一同ノ誠意真面目ナル為ナラン。

食事

午前七時一同食堂ニ集合、君が代二回合唱、敬
礼ノ後食事ニ就ク。

入所式

午前十時左ノ順序ニヨリ入所式挙行ス。

順序

- 一 式辞（所長）
 - 一 君が代再唱
 - 一 所長告辞
 - 一 知事訓示
 - 一 講習生惣代答辞（服部正悌）
 - 一 閉式ノ辞
- 以上

大正七年十月五日

茶話会

午前十一時ヨリ図書室ニ於テ茶話会アリ。本所

ニテ收穫セシさつまいも青豆等ノ馳走アリタリ。

昼食ノ後土曜日ナレバ之ニテ休業。

就寝

午後六時食時^(トク)、同九時礼拝、就寝、例ノ如シ。

十月六日、日曜日、終日ノ雨

起床

午前五時規定ニ従ヒ起床、各規定ノ任務ニ依リ
作業ス。

朝食

午前七時食堂ニ集合、君が代合唱ノ後天皇陛下

弥栄（いやさか）三回合奏、朝食ヲナス。

武道

日曜ナレド雨天ナレバ剣道柔道ニ従事スルモノ

多シ。

就褥

午後九時例ノ通礼拝就褥ス。

十月七日、月曜日、晴

起床

例ノ通。

授業

午後八時ヨリ講堂ニ於テ加藤所長ノ授業。

大掃除

午前一時ヨリ左ノ通大掃除ヲナス。

一 閉式ノ辞

第一食卓組（炊事場。食堂）

第二同（浴場。洗面所）

第三同（寄宿舎便所。廊下。階段。入口）

第四同（講。図。応。道。玄。階段）

第五同（事務室）

猶校庭ノ大掃除ヲナスベキノ処都合ニテ延

期ス。

就褥

例ノ通。

茶話会 午後七時ヨリ茶話会ヲ図書室ニ開キ各員胸襟ヲ

開キテ懇談ス。

十月八日、火曜日、晴

起床 例ノ通五時起床、直ニ任務ノ作業ヲナシ炊事係

ヲ除キ悉ク武道練習、七時朝食。

学科 午前八時ヨリ正午迄加藤所長ノ講義。

実習 食卓ノ第一二組農業実習ス。

武道 第三四組武道練習ス。

就褥 例ノ通九時。

十月九日、水曜日、晴

起床 例ノ通五時武道ノ練習七時迄。

学科 加藤所長

実習 本日晴天ナレバ武道練習ハ臨時農業実習ト交換、

食卓第二組ハ舍外ノ庭掃除、他ハ農業実習ヲナ

セリ。

就褥 例ノ通九時礼拝就褥。

十月十日、木曜日、晴

起床 例ノ通五時武道練習、後朝食。

学科 加藤所長ノ実修ノ形式。農場区画栽培ニ付テ

実習 天氣甚ダ良カッタノデ一同農業実習ヲナス。

參觀 庄内農学校生徒三年生約六十名教員三名二引率

セラレ午後五時半參觀、鶴岡出身ノ所員三名接

待ノ勞ヲ取ラル。所 (本所) (五反) (五反) 特得御さつノ

馳走ヲナス。

猶所長ヨリ青年ノ修養ニ関スル講話アリタリ。

談話 夕食後図書室ニ於テ清水及衛氏ニ関スル講話ヲ

ナス(所長)。

委員 八時半委員会ヲ開キ秋田修学旅行ニ関スル協議

ヲナセリ。

就褥 例ノ通。

右六日間ノ記載担任ハ食卓組第一ニシテ左ノ如

シ 高橋。富樫。新関。加藤。千葉。井上。

十月十一日、金曜日、雨天

起床 例之通。

学科 清水及衛氏ノ産業組等(組合)ニ関シ加藤所長ノ講話

アリ。

実習及武道 来ル十三日ノ日曜ハ清水氏ノ講話アルヲ以

テ当日ノ休業ヲ本日ニ繰上ゲタリ。

ト。

談話

夕食后図書室ニ於テ茶話会ヲ開ク。加藤所長ノ

十月十三日、日曜日、曇天

偉人志士ノ談話アリ。甘藷ノ御馳走ヲ頂キツ、

起床 例ノ通、武道練習同断。

拝聴ス。

学科 午前八時ヨリ正午迄清水先生ノ左記ニ就キ講話。

就褥

規定ノ通り。

社会文明ト農村問題

十月十二日、土曜日、晴天

経済上ヨリ観タル農村問題

起床

例之通。

午後ハ休業。

学科

加藤所長ノ清水先生ノ産業組合等ニ関スル講話

委員会 旅行ニ関スル打合アリ。

及清水先生ノ野中村ノ農村振興ヲ志セル動機ニ

談話 午後七時ヨリ図書室ニ於テ清水先生ノ実験談アリ。

関シ講話アリ。清水先生は桑葉実習ヲ指導スベ

ク招聘ニ応ジテ本日当所ニ御出張アリタルナリ。

就褥 談話非常ニ有益ニ且面白カリシヲ以テ十一時近

実習

午后堆肥積、さつま掘、果樹園ノ草採等ヲナス。

礼拝 例ノ通り。

清水先生実習状況ヲ視察アリタリ。

十月十四日、月曜日、晴天

武道

朝ハ例之通り。

起床 例ノ通り。

就褥

規定之通り。

武道 三本目其ノ他練習。

柔道

本日東京ヨリ岩崎敏夫氏来所、午後八時ヨリ柔

学科 午前八時ヨリ正午迄清水先生ノ農村ノ道德方面

道ヲ指導ス。氏ハ体格偉大、其剛力ト業ノ敏

ニツキ。

活トニハ一同ヲシテ驚嘆ノ念ニ堪ヘザラシム。

実習 白菜ノ間引施肥果樹園ノ除草等、外ニ所庭除草

現ニ二段ナレド将ニ三段ニ昇格スル近キニアリ

談話 午後七時ヨリ十一時迄加藤所長清水先生ノ実験

談アリ。

就褥 右ニ依リ例規ヨリ遅レテ就褥。

十月十五日、火曜日、晴天

起床 例ノ通。

武道 二本目三本目練習、団体及個人。

参拝 所長、講習員一同ヲ引率、午前七時三十分ヨリ

靖国神社へ参拝。

学科 午前八時半ヨリ共同的農業経営ニツキテ清水先

生ノ講話アリ。

実習 午後一時半ヨリ白菜蕪菁ノ除草間引及施肥。

外出 県会議事堂ニ開催ノ通俗講話会聴講ヲ許可セラ

レ十数名外出。

就褥 午後九時二十分礼拝、同十時就褥。

十月十六日、水曜日、^(雨?)□

起床 例ノ通午前第五時。

武道 休ミ。

学科 午前七時半ヨリ八時半迄清水先生ノ産業組合経

営ノ方針ニツキテ。

傍聴 本県ニテ青年団第二回協議会開催ニ付キ午前九

時ヨリ県会議事堂ニ出張。

談話 午後七時十五分ヨリ清水先生ノ談話。

就褥 例ノ通。

十月十七日、木曜日、神嘗祭、晴

起床 例ニ依リ午前五時。

武道 三本目迄練習。

学科 午前七時半ヨリ同八時半迄清水先生ノ産業組合

ニ関スル講話。

傍聴 市内高等小学校ニ於テ開催ノ本県青年団大会ニ

午前九時ヨリ一同臨席ス。

其他 一、青年大会へ出席セシ人々ノ訪問多シ。

二、明朝秋田県視察ノ準備ニテ多忙。

夜学科ハナシ。但清水先生ノ話ハ自由ニ拝聴ス。

^(雨?)就襟 午後八時ヨリ自由。

十月十八日、金曜日、晴

起床 午前第三時半

出発 山形駅発午前第五時

秋田県下刈和野駅着午前九時二十一分

視察

仙北郡強首村九升田部落

深浦宅ニテ故石川翁ノ経営振ヲ聴取。

大久保駅着午後五時徒歩山田部落ニ入ル。

参詣

天下ノ老農石川理紀之助翁之墓

宿泊

南秋田郡豊川村山田石川太郎氏宅、夕飯六時

聴取

故石川翁ニツキ伊藤甚一氏ヨリ約二時間、得ル

トコロ多大、一同感一方ナラズ。

就床

十時、枕ヲ並ベテ二十九名如何ナル夢ヲヤ結ブ

ラン。

十月十九日、土曜日、晴

起床

午前五時

視察

故石川翁ノ山居セル草木山ニ至リ国歌ヲ合唱ス。

伊藤甚一氏ヨリ翁ノ山居当時ノ状況ヲ聞キタリ。

之ヨリ本宅ニ帰り翁ノ起居セリトイフ尚庵ニ入

リ種々ノ遺物書籍等ヲ見、梅ノ屋、古人堂ニ於

テ翁ノ著書ヲ拝観シ石川太郎氏ノ説明ヲ聞ク。

参詣

帰ルニ臨ミ石川翁ノ墓ヲ参拝ス。

視察

豊川村宝田石油会社ニ至リテ前主事大島廣光氏

ヨリアスファルト及石油ニ関スル説明ヲ聞キ、

同氏ノ案内ニテ原油ノ汲上方及石油坑ノ穿鑿ノ

器械其他アスファルトノ製造所等ヲ実地ニ見物

シテ大久保駅ニ至ル。

出発

午后四時三十五分ノ発車ニテ六時秋田ニ着ス。

到着

秋田市大町一丁目沼田旅館

聴取

食後加藤所長、森川翁ノ略歴ノ講話

外出

随意

起床

午前五時

視察

午前六時半雨ヲ犯シテ河辺郡上北手村大字古野

二山居セラル、森川翁ヲ訪問スベク出発、行程

約式里半、午前九時十分着、富国公園ヲ一巡シ

翁ノ苦心談ニ耳ヲ傾クル。一行ハ感奮ノ色禁ゼ

サルモノアリキ。午后一時帰途ニツキ三時半秋

田市感恩講ヲ訪ヘハ、既ニ閉門観ルベカラズ。

乃チ同附属保育園ニ至レバ説明甚ダ懇切ナリ。

五時半同所ヲ辞シ五時四十分帰宿。

外出

夜九時マデ随意外出。

就褥

九時過礼拝、就褥

十月二十一日、月曜日、晴

起床 午前五時半

参拝 弥高神社及平田篤胤先生ノ墓

視察 参拝後市内随意視察(^{歛山}歛業専門学校、物産陳列

場、旭川小学校等)

出発 午後二時五十二分発、午後九時二十七分山形駅

着

帰省 途中帰省ヲ許サル帰省セシモノ七・八名

就褥 夕食後随意就褥

十月廿二日、火曜日、晴

起床 午前六時、慰労休業

見送 午前十一時十七分発上り列車にて帰国せらるゝ。

清水及衛先生を講習生一同停車場ニ見送ル。

就褥 午后九時一同礼拝后随意

十月二十三日、水曜、午前雨、午後曇

起床 午前五時

学科 午前中左ノ講話ヲ聴ク。

一、立憲制と自治制 矢巾巡查教習所長

二、戸主会につきて 長澤本県地方指導

武道

午後一時半ヨリ四時半迄所長先生ヨリ武道ヲ教授セラル。一本目三本目マデ復習、四本目新教授。

感冒

旅行後風邪ニ犯サレシモノ数名アリ。

就褥 定例ノ通。

十月廿四日、木曜、曇、意外に寒冷覺ユ

起床 午前五時、龍山ニ初雪ヲ見ル。

午前五時半ヨリ例之通り武道。

学科 午前中左ノ講話ヲ聴ク。

1、農村自治ニ付キテ 加藤先生

2、農家勞力分配ニ付キテ 同右

午後二時ヨリ三時マデ 西山女子師範学校長ノ

照会(^{紹介})

1、簡易顕微鏡ノ説明ヲ聴ク 原龍豊氏

2、有志者ノ武道アリ 自三時三十分 至四時

三十分

3、有志者ノ柔道アリ 自四時三十分 至五時

三十分

就褥 定刻通り。

十月廿五日、金曜日

午前霰降り四周ノ山々白雪ヲ戴く、午後曇、時々小雨ヲ降シ終日寒サ強シ

起床 感冒ニ罹リタルモノ多キ為メ特ニ六時起床、例ノ如ク食前武道アリ。

学科 午前十時半ヨリ左ノ講話ヲ聴ク。

立憲制ト自治制(前回続キ) 矢巾教習所長

講話傍聴 午後一時県会議事堂ニ守屋内務省監察官ノ講

演(地方自治ノ精神)ヲ傍聴ス——本縣市町村

長会議ニツイテ来県。

感冒 未ダ全快セザルモノ数名アリ加藤先生亦休養中

ト聞ク。

就褥 例ノ通り。

十月廿六日(土) 快晴

起床 風邪ニ冒サレタル人多数アル為午前六時。

武道 食前有志ノ者三四名稽古セリ。

学科 守谷監察官ノ講話(午前九時半ヨリ同十一時

迄)内外ノ状態ニツイテ。

大動乱ノ我が国ニ及ボシタル經濟上精神上ノ影

響ニ説キ起シ、我が国民ノ墮落セルヲ憤リ然モ

其ノ成金風精神ノ腐敗ガ独り大都市商工業者ノミナラス正ニ田園マデ伝染セントシツ、アルハ遺憾ニ堪エズト。

又民本主義ヤ民族自決主義ニ明確ナル判断ヲ与ヘラレ、或ハ国民体力養成ノ急務ヲ説キ、或ハ今後來ルベキ經濟戰ニ対スル覚悟、亞米利加合衆國ノ軍備擴張ノ注目スベキ事等ニ及ベリ。

カクノ如キ国家多事ノ時教育者タル吾人ノ覚醒ヲ刺激セラレタル感アリキ。

西山續氏ノ国民道徳ニツイテ(午前十一時ヨリ零時半マデ)

国民道徳ノ帰趣(註)、ソレニツイヒテノ二三ノ異論及注意。

午後一時ヨリ有志十二三名ノ稽古。

感冒 加藤所長ノ御病氣快方ノ由、会員ノ患者モ二三

名ノ外殆ダ全快セリ。

就褥 例ノ通り。

十月廿七日(日) 雨夕方晴ル

起床 午前五時

武道 午后一時ヨリ有志者約二時間練習。

茶話会 古橋氏近ク横浜市へ行カル、ニ就キ其送別会ヲ

カネテ、延期シオケル金曜日ノ茶話会ヲ午后七

時ヨリ図書室ニ於テ開ク。席上加藤所長ノ親族

ニシテ北海道ニ基督教ノ伝道ニ従事セラル、某

氏ヨリ有益ナル御話ヲ承ル。

就褥 午后九時礼拝ノ後就褥。

十月廿八日(月) 快晴

起床 午前五時、例ノ如ク武道練習アリ。

学科 午前七時二十分ヨリ左ノ講話ヲ聴ク。

一、法ト道徳 ト部理事官

二、国民道徳(我が社会組織の特徴) ニツキ

前回ノ続キ 西山女子師範学校長

三、立憲制ト自治制(前回ノ続キ) 矢巾教習

所長

武道 午後四時ヨリ同五時半マデ武道練習ヲナス。

柔道 午後七時半ヨリ有志者柔術稽古。

就床 午後九時礼拝ノ上就床。

十月廿九日、晴、火

起床 例ノ通午前五時。

学科 加藤所長農村経営、西山女子師範校長国民道徳、

柴垣師範校長ノ実業補習学校。

茶話会 明日閉会後開催スベキ茶話会ヲ本日ニ繰上ゲ午

後五時開会、加藤所長、柴垣校長ノ臨席アリタ

リ。

見送 古橋書記、横浜へ出席ニ付、清水千葉ノ両氏、

会ヲ代表シテ見送りヲナス。

就褥 例ノ通九時

十月三十日、水、晴少雨

起床 例ノ通午前五時規定ノ掃除ヲナセリ。殊ニ最終

ノ事ナレバ一層ノ注意ヲ払ヒテ掃除セシ様ナリ。

授与式 午前九時修了鑑授与式挙行、其ノ順序左ノ如シ

修了順序

一、開式ノ辞

一、君か代

一、修了鑑授与

一、所長告辞

一、知事訓示

一、講習生惣代答辭

一、閉式ノ辭

以上

大正七年十月三十日

概況

前記ノ順序ニヨリ挙行セルガ、加藤所長ハ熱誠溢ル、許リノ態度ヲ以テ會員前途ノ希望ト健康トヲ望マレ告別ノ辭ヲ述ベラレタルハ一同感奮セリ。

知事代理卜部視学官ハ、此ノ短キ講習ニ於テモ要領ヲ得ラバ長キ時期ニ於テ不得要領ノモノニ勝ル事万々ナリ、願クハ此期ニ於テ得タル要領ヲ農村ニ尽サレン事ヲ、殊ニ法令ノ定ムル処ニヨリテ働クハ^{〔兼手〕}務ニシテ^{〔道徳〕}ト云フモノニアラズ。学校ニ於テ働クト同時ニ学校外農村経営、殊ニ青年団補習教育ノ為ニ尽瘁セラレ此処ニ於ケル修養ノ気分ヲ永続セラレ自治ノ為ニ活動セラレ事ヲ望ムニ云々ト。

此日卜部視学官ニハ風邪ヲ犯シテ御臨席セラレタルハ一

同感謝致ス所ナシ。

會員惣代トシテ服部正悌氏ハ、本日吾人ノ朝夕遵奉スベキ勅語御領^{〔發〕}□ノ日ニ於テ授与式ヲ挙ゲラレ所長殿始メ知事代理卜部視学官殿ヨリ懇ル^{〔口〕}ノ御訓示、感銘措ク能ハズ、帰校後ハ誓テ農村ノ自治ニ奮励努力セン。

時寒冷ニ向ク、御自愛ヲ祈ル、會員一同ノ健康ヲ祝ス。